令和３年度“赤い羽根”みんなのしあわせ助成事業

2021年度　調査研究活動事業

福祉ってなに？
２４４名の子どもたちに聞きました調査報告書

焼津福祉文化共創研究会

2021年度 調査研究活動事業
福祉ってなに？２４４名の子どもたちに聞きました調査報告書

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆　　目　　次　　☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

はじめに　尊い子どもたちの意見をもとに、「協働」による“地域づくり”を探る　２ Ｐ

第１章　調査の概要　３ Ｐ
１．調査実施意図
２．調査方法と調査日
３．調査票の形式及び調査項目
４．調査対象と調査票の配布及び回収
５．調査実施機関
６．調査協働

第２章　サンプル構成／基本属性　７ Ｐ
１．性別　２．学年別　３．家族構成別　４．兄弟姉妹別

第３章　調査結果　９ Ｐ
１．基本属性
２．生活状況（子ども）に関すること
３．家庭・家族に関すること
４．地域社会・地域活動に関すること
５．福祉との出会（ふれあい交流）に関すること
６．これからの地域の支え合いへの提言

第４章　調査のまとめ　３３Ｐ

第５章　資料編　３６Ｐ
１．２０２１年度活動経過記録
２．焼津福祉文化共創研究会１年目から２年目の歩み
３．令和３年度焼津福祉文化共創研究会活動計画
４．調査実施要項
５．調査票
６．焼津福祉文化共創研究会通信第 19 号（４月）～第 28 号（１月）
７．新聞掲載記事
８．焼津福祉文化共創研究会規約
☆これからの福祉を考えるネットサイト

は　じ　め　に

尊い子どもたちの意見をもとに、「協働」による“地域づくり”を探る

長引くコロナ禍下、果たして、結成3年目の活動は出来るか心配しながら、4月以降、活動テーマを「港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る」を掲げ、課題改善・解決に向けて活動がスタートしました。

これまでの2年間は、「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」と「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」により、本会の活動基調である「専門性と市民性の融合」「参加型活動」「課題発見と提起」をもとに、意義ある活動を展開し、地域住民に検証報告するとともに、これからの地域づくりについて問題提起をしてきました。

常に、活動を「見える化」「わかる化」する努力をしながら、初年度は、改正介護保険制度下、各地域で課題として取り上げられている「買い物支援」「移動支援」「居場所」等から、 本来、地域社会には、自然発生的、住民主体の「地域ぐるみの居場所」はあったはずだと議論を深め、「港地域の“ご近所”を切り拓く、集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証」をテーマに取り組みました。 意図的な公助による制度下での「集める居場所」ではなく「集まる居場所」を住民一人一人が心掛けていくことを地域社会に発信しました。

そして、2年目は、「地域ぐるみの居場所」を「ご近所」と捉え「港地域のご近所福祉を切り拓くパート2　―協働による地域課題解決を探る―」をテーマに掲げ、改めて、人々は、顔の見える生活圏域のご近所づきあいはどうかを問い質すことにしました。「ご近所福祉その意識と実態調査」の結果から、地域住民相互のつながりやささえあいの弱体化、地域コミュニティへの関りの希薄化は、厳しいコロナ禍下でさらに浮き彫りになりました。

そこで、3年目の今年度は、尊い「焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」により、この2年間のプロセスをもとに、これまで大人社会を中心に捉えてきた地域課題を、特に「子ども」に視点を置くことにしました。

本来あるべき「地域の子どもを地域で育む」ことが、こうした社会環境の中で、次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」は確実に醸成されているかを、地域の大人社会と向き合う子どもたち（小学4年生から6年生）を対象に、「生活状況（子ども自身）」「家庭・家族のこと」「地域社会・地域活動のこと」「体験事例」「地域への期待」の各項目の意識と実態を把握し、子どもたちを取り巻く地域環境の課題を改善・解決し「共生社会」をめざして、地域社会に提言することを目的に取り組みました。

厳しい地域環境の中ではありましたが、自治会・町内会関係者、小川・港各小学校校長様をはじめ PTA・子供会役員、各子供会世話人の皆さん、地区民生委員児童委員の皆さんのご理解とご支援により、実施しました「福祉ってなに？150名の子どもたちにききます」調査は、なんと、244名の尊い子どもたちからの回答をいただくことができました。「なぜ150名？」の問いに答えなければなりません。 本会が当初、取りまとめた管内子供会加入対象者概数は280名、せめて、半数の回答があればという単純な設定でした。

しかし、管内の関係団体・学校関係者等の積極的な関りの結果、回収率87．1％にあたる244名の子どもたちから尊い意見をいただくことが出来ました。 改めて、今回の活動は、調査結果を出すことが目的ではなく、子供を取り巻く地域の仕組みのあり方を「相互理解」し、「協働」による地域活動の必要性を実感しました。 本会の小さな試みを大きく発展できるよう、さらに努力をしてまいります。

私たちのキーワード「共創」そして「子ども」が、なんと、今日、中央社会でにぎやかに叫ばれていることが何か意義深くも感じます。 改めて本会の活動に、ご支援ご協力をいただきました皆様方に、謹んで感謝申し上げます。

この「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査報告書」が、これからの地域づくりの一助になることを期待します。

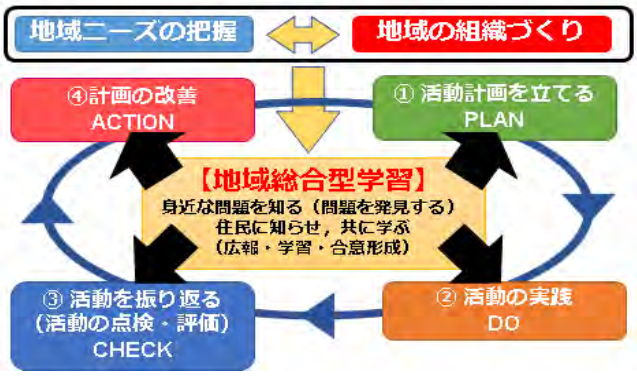
令和4年　2月　20日

焼津福祉文化共創研究会　一　同

第１章　調査の概要

１．調査実施意図

本会の活動は、結成以来「調査研究活動」「地域総合型公開学習活動」「見える化・わかる化活動」と大きく分けて3つの柱立てにより展開している。とりわけ、「調査研究活動」の取り組みは、地域の現状や課題を知らずして真の地域活動はあり得ないを基盤に、これまで「地域ぐるみの居場所の検証」「ご近所福祉の意識と実態の検証」に取り組んできた。



いずれも、地域の福祉課題をテーマに、大人社会を対象に調査研究活動に取り組み、地域社会に課題提起をしてきた。

2020 年度取り組んだ「ご近所福祉その意識と実態調査」結果から、地域住民相互のつながりやささえあいが弱くなり、地域コミュニティへの関りについて、その意識と実態が希薄化の傾向にあることが浮き彫りになった。

こうした、地域環境で生活している、次世代を担う子どもたちは、果たして「思いやりの心」が、確実に醸成されているか、加えて、厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうか、問い質す時期が来ていることを確認し、今年度は「子ども」をキーワードにした、「調査研究活動」を本会の活動の主軸に、調査研究活動の基本は、地域社会を基盤におき、できる限り、地域社会の仕組みの中で取り組むこととした。 このたびの調査では、身近な生活圏域において、地域の大人社会と向き合う子どもたちを対象にご近所や同居する高齢者（認知症高齢者含）、障がい児者等への思いやりについて、「基本属性」「生活状況（子ども自身）」「家庭・家族のこと」「地域社会・地域活動のこと」「体験事例」「地域への期待」の各項目の意識と実態を把握し、子どもたちを取り巻く地域環境課題を改善・解決し「共生社会」をめざし、地域社会に提言することを目的とした。

調査実施の時期については、地域で取り組むための働きかけが必要であること、コロナ禍下、地域への負担をかけない様に、早目に調査協力を呼び掛けていくなどを念頭に、夏休み期間を活用していくことにした。 調査対象児童を協議する中で、当初、小学5年生と6年生を対象にすることとしていたが、学校関係者から、対象は「4年生」も十分回答できる領域である意見をいただいた。 こうした議論を重ねていく中で、当初「150名に聞きます」の表題の根拠をしっかりと把握することが必要であることに気が付いた。今日、子供会組織に入っていない児童もいることを知ることができた。 過去には、自治会・町内会加入は、当たり前としてきた時代から、今日では、未加入の世帯も存在している。

そこには、地縁団体とはいえ、「任意団体」であり、強制はできない社会の仕組みでもある。

このことは、過去には、「子供会」「老人クラブ（さわやかクラブ）」「婦人会」「青年団」等が総合作用を持ちながら「自治会・町内会」活動を支えていた。

しかし、今日では、「志縁団体」は、その機能が弱まり、各団体の果たすべき目的が薄れてきた結果、「未加入者（世帯）」が、少なからず存在し、多様化した社会構造になりつつあることも再認識できた。

まずは、地域社会を取り巻く子どもの状況把握が必要であることを再確認し、各子供会世話人、PTA・子供会役員、学校関係者からいただいたデータを本会なりに集約することができた。

本会が取りまとめた、「港地域づくり推進会管内の子どもの状況」は下記の通りである。

港地域づくり推進会管内（港第１４・２３自治会）子供会調査対象児童状況把握一覧表

№.	子 供 会 名	校区	自治会	4年生	5年生	6年生	対象児童合計	子供会全体数
1	星の子第１子供会	小川	14	4	5	8	17	43
2	星の子子供会	港	14	6	6	7	19	57
3	第1青い鳥子供会	港	14	5	9	7	21	53
4	新青い鳥子供会	港	14	6	6	3	15	29
5	するが子供会	港	14	2	7	1	10	23
6	石津浜子供会	港	14	5	2	4	11	20
7	青空子供会	港	14	4	2	4	10	16
8	第１新青葉子供会	港	14	5	4	2	11	28
9	星の子第2子供会	小川	14	7	4	1	12	42
港第１４自治会関係小計				**４４**	**４５**	**３７**	**１２６**	**３１１**
10	第１若竹子供会	港	23	9	11	6	26	62
11	第２若竹子供会	港	23	5	2	1	8	18
12	第３若竹子供会	港	23	3	0	3	6	13
13	第５若竹子供会	港	23	5	1	3	9	16
14	第６若竹子供会	港	23	3	6	8	17	36
15	第１仲よし子供会	港	23	0	4	1	5	19
16	第２仲よし子供会	港	23	7	6	3	16	39
17	第３仲よし子供会	港	23	7	5	2	14	26
18	第１さざ波子供会	港	23	4	9	6	19	33
19	第２さざ波子供会	港	23	6	2	4	12	28
20	第１砂浜子供会	港	23	6	5	5	16	22
21	第１０砂浜子供会	港	23	3	3	0	6	１５
港第２３自治会関係小計				**５８**	**５４**	**４２**	**１５４**	**３２７**
港地域づくり推進会管内合計				**102**	**99**	**79**	**280**	**638**

◇港第１４自治会管内子供会組織１２の町内会のうち７町内会に９組織（但し２町内会２，１町内会２）
◇港第２３自治会管内子供会組織１５の町内会に１２組織

◇地域別と調査対象児童数

	小川小学校		港小学校		調査対象児童合計
全児童数／対象数	全児童数	対象数	全児童数	対象数	
港第１４自治会	８５名	２９名（２子供会）	２２６名	９７名（　９子供会）	１２６名（１１子供会）
港第２３自治会			４２７名	１５４名（１２子供会）	１５４名（１２子供会）
計	２９名（２子供会）		２５１名（２１子供会）		２８０名（２３子供会）

２．調査方法と調査日

(1) 調査票・項目の検討

4月～7月　定例研究会及び「調査部会」を研究会内に設置して協議。また、「共創社会実現

研究会」（考える会内に設置）に外部委員3名委嘱し、意見を求めた。

(2) 調査票の完成

調査検討協議を積み重ねながら、「予備調査」の実施し、7月17日仕上げる。

(3) 調査依頼（実施期間）

調査時点を、8月 1日とし、 7月 25 日～08 月 31 日の夏休み期間中とした。

(4) 回収・入力（単純集計）期間

「第3回調査部会」(7/9開催)より、調査データ入力に関する協議を開始し、7月30日から9月20日の間、6名のデータ入力協力会員により、データ入力作業に取り組んだ。

この間、回収・入力作業状況を見ながら、「単純集計」及び「クロス集計」作業に取り組み、9月25日の「第7回調査部会」において、回収データ244枚の集計結果を確認した。

(5) 分析・考察

コロナ下、会員全員が出席できる状況にないため、「第7回調査部会」において、分析・考察方法を検討し、「各種集計表」を9月25日に会員全員に事前配布し、約15日間、個人作業を通して、各質問ごとに考察作業を実施し、「10月定例研究会」において、報告する方法を提示した。

その後、11月（第32回）・12月（第33回）定例研究会において、全体調整作業を継続させて、意見を集約し「報告書」に取りまとめた。

(6) 公表・報告

データ入力作業期間中、「中間報告」の機会を設け、本会関連各種会議や、関係機関・団体等の各種研修会で経過を報告し、「焼津福祉文化共創研究会通信」で随時経過・概要を紹介した。

正式公表を令和4年 2月19日に「公開型報告研修会」をもって最終的な公表とした。

３． 調査票の形式及び調査項目

(1) 調査票の形式　　A3版 両面2ページ 24項目の質問

(2) 調査項目

①基本属性	⇒	質問1（問 1,2,3,4,5）	5項目
②生活状況（子ども自身）	⇒	質問 2.3.4.5	4項目
③家庭・家族に関すること	⇒	質問 6.7.8.9.10	5項目
④地域社会・地域活動に関すること	⇒	質問 11.12.13.14.15.16. 17.18.19.20.21.22	12項目
⑤福祉体験に関すること	⇒	質問 23	1項目
⑥地域の支え合いの提言	⇒	質問 24	1項目

４． 調査対象と調査票の配布及び回収

(1) 対　　象

「港地域づくり推進会」管内（港第14・23自治会）の小学校4年生・5年生・6年生約 150 名の調査票回収を目標に実施.

(2) 配布方法

調査の実施にあたり、管内関係方面への協力依頼の必要性から、「港地域づくり推進会会長」「港第14・23自治会会長」管内「27の町内会長」「管内2つの小学校校長及び PTA・子供会会長」「管内23の各子供会世話人」「港地区民生委員児童委員協議会（24名）」「管内3つのスポーツ少年団」「本会会員」等 60箇所 513枚の調査票を配布した。

最終的には、管内23の子供会世話人を通して、対象児童280名に配布をお願いした。

調査票の配布期間中に、それぞれの自治会内の町内会長会議において、各子供会世話人との連携のもと、調査の協力をお願いした。 また、個々に、子供会世話人、スポーツ少年団宛てに、調査の依頼文書を送付した。 会員による、管内の対象家庭の訪問を通じて、協力を働きかけた。

(3) 回収状況

7月25日から9月20日までを調査回収期間とし、それぞれ管内の地域性を活かす形で回収に努めた。 会員による戸別訪問による回収、学校側のご理解をいただき、会員による児童登校時の校門における回収作業をはじめ、各自治会の町内会長会議における回収呼び掛け、各子供会世話人宅を訪問した回収、各子供会世話人主体に回収し本会に届けていただくなど、様々な取り組みにより、対象児童280名に対して、244名（87％の回収率）からの尊い回答が寄せられた。

配布作業、そして、回収作業の一連の取り組みから、改めて「協働の重要性」「焼津福祉文化共創研究会」を理解をしていただくための努力が必要であること、その上に立って、地域活動の必要性を共通理解できる環境づくりが求められることを認識した。

５． 調査実施機関　焼津福祉文化共創研究会

本会結成以来2年間、取り組んできた調査研究活動は、定例研究会を中心に議論をしてきた。

また、昨年度から、協働団体である「静岡福祉文化を考える会」との活動をより、密接に連携し合うためには、さらに、小回りの利く、「部会」設置の必要性から、今年度、3年目からは、「調査部会」 を新たに立ち上げ、きめの細かい日常的連携をもとに、進行管理体制を明らかにしていく取り組みをした。

今回は、下記の通り「調査部会」を確実に開催し、円滑な運営に努力した。

月	展　開　方　法	備　考
6月	第1回(6/ 3) (1)設置趣旨確認と昨年度の総括と現状確認 (2)子ども対象福祉意識と実態調査事業の基本方針 第2回(6/26) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（調査項目）	・財源確保努力
7月	第3回(7/ 9) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（調査配布方法・配布） 第4回(7/31) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（調査回収努力）	・ブログ検証
8月	第5回(8/18) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（調査集計・クロス①）	
9月	第6回(9/11) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（調査集計・クロス②） 第7回(9/25) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（調査集計・クロス③）	
10 月	第8回(10/ 7) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（分析作業①） 第9回(10/23) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（分析作業②）	・ブログ検証
11 月	第10回(11/6) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（報告書編集①）	
12 月	第 11 回(12/8) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（報告会企画）	・ブログ検証
1月	第 12 回(1/8) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（報告会具体化）	
2月	第 13 回(2/5) 子ども対象福祉意識と実態調査事業（調査報告会広報）	
3月	第 14 回(3/12) 2021 年度事業総括と 2022 年度の方向性確認	・協働の検証

６． 調査協働　静岡福祉文化を考える会

第２章　サンプル構成/基本属性

この章では、本調査の基本となる「サンプル構成」「基本属性」をまとめた。

今回、はじめて「子ども対象」の調査活動に取り組むにあたり、広く県内外で取り組まれている「基本調査」「世論調査」「動向調査」等で活用している項目を参照にした。

取り上げた「基本属性」は、「１．性別」「２．学年別」「３．地域別」「４．家族構成別」「５．兄弟姉妹別」の５項目とした。

「３．地域別」については、大きく「港地域づくり推進会」管内を対象とした調査であり、主には１つの小学校区に集中していることから、あえて、考察においては、２つの自治会を比較考察はしないことにした。

◇このたびの調査の回答実数は、**２４４名**であることが確認できた。
◇児童の回答状況について、各質問項目を集計すると、２４４名に達しない項目、または、２４４名以上の集計項目がいくつか見受けられた。
本会としては、この点を安易に、主催者の立場で、処理することなく、子どもたちの回答選択肢を尊重し、個々の集計実数をもって表示していることを確認していただく。

１．性別

⑴男性　122名（50％）⑵女性　122名（50％）

＊性別では、特に事前に調整したものではなく、偶然ではあるが、今回の回答は男性5割、女性5割の同じ回答結果であった。

２．学年別

⑴4年生　82名（34％）　⑵5年生　91名（37％）⑶6年生　71名（29％）

＊当初、本会では、調査対象を5年生と6年生の2学年で検討していた。
調査票の内容を協議する中で、学校関係者から、4年生を対象としても回答可能である助言をいただき、4年生から6年生までを対象とした。

＊回答結果を見ると、4年生からの回答は意外と多く、回答順から、5年生の次に4年生、そして6年生の順であった。　発達段階的にも、5年生の回答の多いことが読み取れる。

＊質問項目から、年代別考察として取り上げることができる。

３．家族構成別

⑴おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らしている　77名（32％）
⑵親と子どもだけで暮らしている　165名（68％）
⑶その他　1名　（0％）

＊ここでは、1名回答不明となっている。

＊親と子どもだけで暮らしている回答が68％と多く、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らしている77名（32％）の生活環境から、2．4倍と都市型家族構成の傾向を感じる。 こうした、生活環境から、子どもたちの思いやりの心が育まれているかを考察していくことができる。
現在の社会環境から、祖父母との同居の子どもからの回答で、福祉観がどのように読み取れるか、考察することができる。 一方、地域からの孤立化を防ぐ見守りの必要性を感じる。

４． 兄弟姉妹別

あなたは、あなたを含めて、兄弟姉妹は何人ですかの回答結果では、

(1)1人　28名（12％）(2) 2人　111名（46％）　(3)3人　73名（30％）(4)4人以上　31名（13％）

＊ここでは、1名回答不明となっている。

＊兄弟姉妹の回答では、一番多い回答は「2人」で46％、二番目に多い回答は、「3人」で30％
次に、4人以上13％、1人12％の回答結果で、1人は意外と少ない。

＊家族構成別とともに、兄弟姉妹の関係は、家庭・家族関係及び地域との関係はどのような状況であるかを考察できる。

●「福祉ってなに？244 名の子どもたちに聞きました」調査項目とクロス集計

今回の調査結果については、「調査部会」及び「定例研究会」で、下記のようなクロス集計をもとに考察することとした。

質問№・内容 ＼ 基本属性		1.性別	2.学年	3.家族構成	4.兄弟姉妹
2	友だちと遊ぶか	●	●		
3	手伝いをするか(内容)	●	●	●	●
4	誰に相談するか	●	●	●	●
5	友だちが困っていたらどうするか	●	●		●
6	家族と話をするか	●	●	●	
7	6で「①よくする」「 ②たまにする」の回答者	●			
8	6で「③しない」の回答者	●			
9	家族にほめられるか(内容)	●	●	●	●
10	毎日家族と楽しく過ごしているか	●		●	●
11	地域で心掛けていること	●	●		
12	他人のために何かをしてあげたいか	●	●	●	
13	近所の人と話をするか	●	●	●	●
14	地域の行事に参加するか	●	●	●	●
15	住んでいる地域はよい地域か	●	●		
16	15 で「①とても良い」「②良い」の回答者	●			
17	15 で「③あまりよくない」「④よくない」回答者	●			
18	行事の呼びかけがあれば参加するか	●	●	●	●
19	地域の人にほめられたことがあるか(内容)	●	●	●	
20	「赤い羽根共同募金」を知ってるか	●	●		
21	地域の情報はどこから得ているか	●	●	●	●
22	毎日の生活で楽しい場所はどこか	●	●	●	
23	ふれあい交流の有無(内容)	●	●	●	
24	安心してみんなで楽しく暮らせる地域とは(自由回答)	●	●		

第３章　調査結果

第3章では、「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました」調査について、24の質問項目の調査票により、焼津市内「港地域づくり推進会」管内の小学4年生から小学6年生の280名の対象児童に、自治会・町内会、各子供会世話人の皆様にお願いして、150名（回答率50％）の予想を大きく上回る244名（87％）から回答をいただいた。この回答データを、「焼津福祉文化共創研究会」内に設置した「調査部会」メンバー中心に、単純集計と、「性別」「学年別」「家族構成別」「兄弟姉妹別」のクロス集計作業をし、第2章　サンプル/基本属性をもとに、24の設問項目の調査結果を次の「6つの領域」に分けて考察した。

(1) 基本属性(質問1の問 01～問 05　までの 5 問)

①　「性別」 ②「学年別」 ③「家族構成別」 ④「兄弟姉妹別」

(2) 生活状況（子ども）に関すること(質問2～質問5　までの4つの質問)

①　あなたは、友だちと遊びますか。

②　あなたは、お手伝いをしますか。

③　あなたは、自分のことでこまった時は、主に誰に相談しますか。

④　あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。

(3) 家庭・家族に関すること（質問6～質問10　までの5つの質問）

①　あなたは、家族と話をしますか。

②　家族とどんな時に話をしますか。

③　家族と話をしない理由は何ですか。

④　あなたは、家族の人にほめられますか。

⑤　あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。

(4) 地域社会・地域活動に関すること（質問11～質問 22までの12の質問）

①　あなたは、地域でどのようなことに心掛けていますか。

②　あなたは，すすんで他人のためになにかをしてあげたいと思いますか。

③　あなたは、近所の人とよく話をしますか。

④　あなたは、地域が行うイベントによく参加しますか。

⑤　あなたが住んでいる地域は、とても良い地域だと思いますか。

⑥　あなたの住んでいる地域の良いところはどこですか。

⑦　あなたの住んでいる地域の良くないところはどこですか。

⑧　あなたは、地域の行事参加の呼びかけがあれば参加しますか。

⑨　あなたは、地域の人にほめられたことがありますか。

⑩　あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。

⑪　あなたは、日常の生活の情報はどこから得ていますか。

⑫　あなたは、毎日の生活で、楽しい居場所はどこですか。

(5) 福祉との出会い（ふれあい交流）に関すること（質問23の1つの質問）

①　あなたは、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流をしたことがありますか。

(6) これからの地域の支え合いへの提言（質問24の1つの質問）

①　あなたにとって、「安心して、みんなで楽しく暮らせる地域」とは、どんな地域ですか。

１．基本属性　（質問１の問０１～問０５　までの５問）

ここでは、質問1の問1から問5の「基本属性」についてまとめた。

					行計	項合計	項目内比
質問1	問01	性別	男性	①	122		50%
			女性	②	122	244	50%
	問02	学年	4年生	①	82		34%
			5年生	②	91		37%
			6年生	③	71	244	29%
	問03	住まいの地域	港第14自治会	①	109		45%
			港第23自治会	②	135	244	55%
	問04	家族について	おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮している	①	77		32%
			親子のみ	②	165		68%
			その他	③	1	243	0%
	問05	何人兄弟姉妹	1人	①	28		12%
			2人	②	111		46%
			3人	③	73		30%
			4人以上	④	31	243	13%

(1) 性別について

＊偶然にも、男性122名、助成22名と同じ回答結果であった。 この回答から、男女別の考察はより具体的な結果をみることができる。

(2) 学年別について

＊4年生　82名（34％）　(2)5年生　91名（37％）(3)6年生　71名（29％）は、ほぼ同数の回答結果であり、年代別の考察もより具体的な考察が出来る。

回答順では、5年生の次に4年生、そして6年生の順であった。

(3) 地域別について

＊港地域づくり推進会管内は、「港第14自治会」と「港第23自治会」の2つの自治会で組織している。

「港第23自治会」の児童は、全て港小学校区内にある。 一方「港第14自治会」は、港小学校区と小川小学校区の2つにまたがる。 規模的（世帯数・在住人口）には、「港第23自治会」の方が大きい。

「港第14自治会」には、現在、12の町内会があり、9つの子供会組織があり、子供会加盟の調査対象児童は126名、「港第23自治会」には、17の町内会があり、12の子供会組織があり、子供会加盟の調査対象児童は、154名となっている。

＊「港第14自治会」は、109名（86．5％）、「港第23自治会」は、135名（87．7％）の回答結果である。

(4) 家族構成別について

＊回答順では、「親と子どもだけで暮らしている」 165名（68％）「おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らしている」 77名（32％）「その他　」 1名　（0％）。

＊回答結果から、都市型家族構成の地域環境傾向にある。

子どもを取り巻く地域環境からは、いかに地域全体で「子どもたちの思いやりの心を育む」ことや、「地域からの孤立化を防ぐ見守り」等の地域課題があげられる。

(5)兄弟姉妹別について

＊兄弟姉妹の回答では、一番多い回答は「2人」で46％、二番目に多い回答は、「3人」で30％、次に、「4人以上」13％、「1人」12％の回答結果であった。意外と「1人」は少ない。

２．生活状況（子ども）に関すること（質問２～質問５までの４つの質問）

ここでは、24の質問項目のうち、「生活状況に関すること」について、

質問2　あなたは、友だちと遊びますか。

質問3　あなたは、お手伝いをしますか。

質問4　あなたは、自分のことでこまった時は、主に誰に相談しますか。

質問5　あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。

の4つの質問の回答結果をまとめた。

質問２　あなたは、友だちと遊びますか。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
質問２	よく遊ぶ	46	38%	41	34%	87	36%
あなたは，友だちとよく遊びますか	ときどき遊ぶ	62	51%	60	49%	122	50%
	あまり遊ばない	14	11%	15	12%	29	12%
	全く遊ばない	0	0%	5	4%	5	2%
	小計	122		121		243	

今日、子どもを取り巻く社会環境（親の都合、子どもの生活基盤の固定化・塾・習い事等）により、子どもの日常的な行動や子ども同士の関係づくりも制約を受けていることが伺える。

「ともだちと遊ぶ」傾向は、全体で86％である。 男性の89％に対して女性は83％である。「友だちと遊ばない」傾向は、全体で14％。 男性11％に対して、女性は16％とやや高い。

		人数 ４年生		人数 ５年生		人数 ６年生	
質問２	よく遊ぶ	23	28%	40	44%	24	34%
あなたは，友だちとよく遊びますか	ときどき遊ぶ	50	62%	41	45%	31	44%
	あまり遊ばない	8	10%	9	10%	12	17%
	全く遊ばない	0	0%	1	1%	4	6%
	小計	81		91		71	

これを、学年別（年代別）に考察すると、「友だちと遊ぶ」傾向は、回答の多い順に、4年生90％、5年生89％、6年生78％と、学年が上がるにつれて、自由に友だちと交流できる関係はやや薄くなる結果である。

身近な地域において、自由に友だちと遊ぶことによる、「協調性」「集団性」「社会性」を育む機会は、学年の低い時期に培われている一面が感じられる。

質問３　あなたは、お手伝いをしますか。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
質問３	よくする	35	28%	52	42%	87	35%
あなたは，お手伝いをしますか。	ときどきする	54	44%	49	40%	103	42%
	あまりしない	29	24%	20	16%	49	20%
	しない	5	4%	3	2%	8	3%
	小計	123		124		247	

この質問3の「あなたはお手伝いをしますか。」は、子どもの家事労働が、どのように、身近な地域社会において、積極的な社会参加につながるかを考察するためにもうけた質問である。

「お手伝い」は、全く個人の自発的な側面と、社会生活から学び取った側面と、家庭環境において役割分担化されている側面（大人社会における共働き・経済的側面）があることの認識が伺える。

そうした中で、回答結果をみると、全体的な傾向として、「よく手伝いをする」35％、「ときどき手伝いをする」45％で、「手伝いをする」傾向は80％と高い回答である。

「あまり手伝いをしない」20%、「手伝いをしない」3%と、「手伝いをしない」傾向は23%である。

家庭内における手伝いの位置づけは、子どもの役割分担を提示して、生活の中でルール化し、日常的位置づけの工夫も課題の一つと考えられる。

「手伝いをする」傾向は、男性72%に対して、女性82%と、約10%女性の方が積極的である回答結果であることから、男性の家庭環境における、「手伝い」の生活のルール化の中での位置づけにより、自発性が培われることを期待したい。

		人数	４年生	人数	５年生	人数	６年生
質問３	よくする	25	30%	37	41%	25	35%
あなたは，お手伝いをしますか。	ときどきする	39	48%	35	39%	25	35%
	あまりしない	17	21%	14	16%	18	25%
	しない	1	1%	4	4%	3	4%
	小計	82		90		71	

これを学年別（年代別）結果でみると、「手伝いをする」５年生８０%、４年生７８%、６年生７０%の順で、５年生が積極的あり、その次に４年生、６年生の順である。

		人数	祖父母同居	人数	親子のみ	人数	その他
質問３	よくする	22	29%	65	40%	0	0%
あなたは，お手伝いをしますか。	ときどきする	33	43%	65	40%	0	0%
	あまりしない	20	26%	28	17%	1	100%
	しない	2	3%	6	4%	0	0%
	小計	77		164		1	

「家族構成別」結果では、「手伝いをする」傾向結果では、回答の多い順に、親子のみ80%、祖父母同居72%である。 家庭環境における、日常的な生活の中では、親子のみの家庭環境においては、「手伝い」の位置づけが明確化しているようにも伺える。

		人数	１人	人数	２人	人数	３人	人数	４人以上
質問３	よくする	9	32%	42	38%	27	38%	9	29%
あなたは，お手伝いをしますか。	ときどきする	14	50%	47	42%	23	32%	15	48%
	あまりしない	5	18%	20	18%	18	25%	6	19%
	しない	0	0%	2	2%	4	6%	1	3%
	小計	28		111		72		31	

「あなたは、手伝いをしますか。」の質問を、兄弟姉妹別の結果から見ると、一人82%、二人80%、4人以上77%、三人70%となっている。

家族構成別と同様、家庭環境における、日常的な手伝いの位置づけが伺える。

「質問3」において、「よく手伝いをする」「ときどき手伝いをする」の回答の子どもに、具体的な手伝いの内容の自由回答結果は下記の通りである。

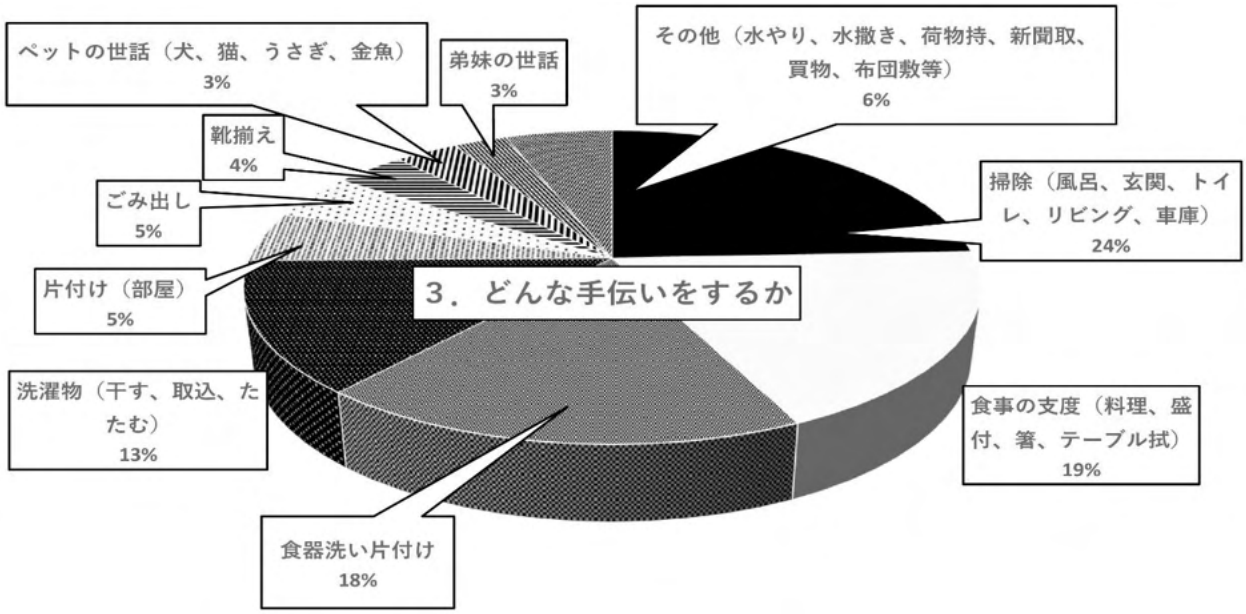
順不同で紹介すると、食事を中心に、「食事の支度」「食器洗い・片付け」、「家の掃除（風呂・玄関・トイレ・リビング・車庫）」「洗濯物に関するもの」「ペットの世話（犬・猫・ウサギ・金魚）」「弟妹の世話」「靴そろえ」「ゴミ出し」「部屋の片付」「その他（水やり、水撒き、荷物持ち、新聞取り、買い物、布団敷、布団たたみ）等、日々の家庭生活の中で、子どもの手伝いとして、多くの「手伝いの内容」があげられている。

ここで、さらに、回答結果の多い順にまとめると、「食器洗い・片付け」19%、「家の掃除（風呂・玄関・トイレ・リビング・車庫）」24%、「食事の支度」19%、「洗濯物に関するもの」13%等である。

日常生活（平日）では、手伝いの範囲は、子どもの生活日課の中である程度ルール化した方向性がみられる。

この項目を、さらに休・祝日等に分けた考察とした場合では、自由な時間帯の中で、手伝いの内容は幅広いものが予想できる。

いずれにしても、家庭内のおける生活環境を整え、地域社会との接点を維持しながら、自発的、協調的、社会的行動につながり、積極的に地域参加の行動につながる心掛けを期待したいものである。



質問４　あなたは、自分のことでこまった時は、主に誰に相談しますか。

質問4		人数	男性	人数	女性	人数	全体
あなたは，自分のことでこまったときは主に，だれに話したり相談したりしますか。主なものを３つまで答えて下さい。	友だち	45	18%	59	22%	104	20%
	父親	43	18%	39	15%	82	16%
	母親	85	35%	94	35%	179	35%
	学校の先生	19	8%	15	6%	34	7%
	おじいちゃん・おばあちゃん	16	7%	16	6%	32	6%
	親戚	2	1%	2	1%	4	1%
	兄弟姉妹	14	6%	27	10%	41	8%
	その他の人	1	0%	2	1%	3	1%
	誰にも相談しない	7	3%	5	2%	12	2%
	こまっていない	13	5%	8	3%	21	4%
	小計	245		267		512	

全体の回答結果で回答の多い順に「母親」35%、「友だち」20%、「父親」16%、「兄弟姉妹」8%、「学校の先生」7%、「祖父母」6%、「困っていない」4%、「誰にも相談しない」2%、「親戚」1%、「その他の人（学童保育職員・病院の先生）」1%。相談範囲の解釈が幅広い中で、「友だち」20%が目立つ。 日常的な生活環境の範囲内の子ども基準の回答結果と受け止めることができる。 生活全般における広い相談として、「母親」35%が一番多く、それに対して「父親」16%の存在がやや薄い。 「兄弟姉妹」8%、「祖父母」8%は、家庭・家族のつながりの中の回答と伺える。「学校の先生」7%は、子どもたちの生活での問題解決上、大きな存在意義を感じる。

「困っていない」4%は、家庭環境などが整い、相談は、日常生活の中で常に解消している側面が伺える。

「誰にも相談しない」2%の結果を、大人社会は常にしっかりと生活の中で受け止め、家庭内に語れる環境をつくる心掛けとともに、発達段階に応じた問題解決方法を考えていきたい。

質問4		人数	4年生	人数	5年生	人数	6年生
あなたは，自分のことでこまったときは主に，だれに話したり相談したりしますか。主なものを３つまで答えて下さい。	友だち	30	17%	39	22%	35	22%
	父親	27	16%	24	13%	31	19%
	母親	66	38%	62	34%	51	32%
	学校の先生	16	9%	10	6%	8	5%
	おじいちゃん・おばあちゃん	9	5%	13	7%	10	6%
	親戚	1	1%	2	1%	1	1%
	兄弟姉妹	15	9%	13	7%	13	8%
	その他の人	2	1%	0	0%	1	1%
	誰にも相談しない	2	1%	3	2%	7	4%
	こまっていない	4	2%	14	8%	3	2%
	小計	172		180		160	

学年別(年代別)でみると、友だちに相談は、5･6年生が多く、5年生･6年生は、同じ割合となっている。

母親への依存は4年生が多く、5年生、6年生となっている。 父親へは、6年生は多く、4年生、5年生の順である。 学校の先生は、4年生が多く、5年生、6年生の順となっている。

質問４		人数	祖父母同居	人数	親子のみ	人数	その他
あなたは，自分のことでこまったときは主に，だれに話したり相談したりしますか。主なものを３つまで答えて下さい。	友だち	32	20%	71	20%	1	33%
	父親	24	15%	57	16%	0	0%
	母親	55	35%	122	35%	1	33%
	学校の先生	11	7%	23	7%	0	0%
	おじいちゃん・おばあちゃん	15	10%	15	4%	1	33%
	親戚	2	1%	2	1%	0	0%
	兄弟姉妹	8	5%	33	9%	0	0%
	その他の人	2	1%	1	0%	0	0%
	誰にも相談しない	4	3%	8	2%	0	0%
	こまっていない	4	3%	17	5%	0	0%
	小計	157		349		3	

家族構成別の結果からは、「祖父母」への相談が多くなり、父親への相談は減少傾向。兄弟姉妹への相談は、親子別の方が、祖父母同居別よりも相談は多い傾向。

質問４		人数	１人	人数	２人	人数	３人	人数	４人以上
あなたは，自分のことでこまったときは主に，だれに話したり相談したりしますか。主なものを３つまで答えて下さい。	友だち	13	23%	49	20%	29	20%	12	20%
	父親	9	16%	39	16%	25	17%	9	15%
	母親	21	37%	85	35%	48	33%	24	39%
	学校の先生	5	9%	18	7%	7	5%	3	5%
	おじいちゃん・おばあちゃん	5	9%	14	6%	8	5%	5	8%
	親戚	0	0%	2	1%	2	1%	0	0%
	兄弟姉妹	0	0%	23	9%	14	10%	4	7%
	その他の人	1	2%	1	0%	1	1%	0	0%
	誰にも相談しない	2	4%	3	1%	6	4%	1	2%
	こまっていない	1	2%	10	4%	7	5%	3	5%
	小計	57		244		147		61	

兄弟姉妹別でみると、全体的には、母親への相談が多い傾向が伺えるが、一人では、友だちへの相談が多くみられるほか、学校の先生、祖父母への相談傾向は多い。

質問4の「あなたは、自分のことでこまった時は、主に誰に相談しますか。」項目から、全体的考察として、「コミュニケーション能力の助長」を常に生活の中で工夫していきたい。

質問５　あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。

質問５		人数	男性	人数	女性	人数	全体
あなたは，友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。	話を聞く	91	75%	112	90%	203	82%
	別の友だちや大人などに相談する	6	5%	3	2%	9	4%
	何もしない	6	5%	1	1%	7	3%
	その他	0	0%	2	2%	2	1%
	わからない	19	16%	7	6%	26	11%
	小計	122		125		247	

全体的には、「話を聞く」が82%と回答が多く、この地域は、話し合える環境であることが伺え、また、優しさもあると読み取れる。　こうした「語れる環境」を常に維持出来る地域社会を、大人社会は、日常的に努力していきたい。 男女別回答では、女性が「話を聞く」90%と高く、男性の75%を15%上回っている。

この質問項目でも、女性の積極的関りが伺える。 また、「わからない」は、男性16%、女性6%を10%も上回っている。 日頃から、関係づくりを維持しながら、問題解決のあり方を、地域全体で学び合う地域環境をつくることに努めていくことが求められる。

学年別、家族構成別、兄弟姉妹別では、ほぼ、全体の回答結果と大きな開きはない。

「その他」の回答では、女性の意見として「どうしたらいいか話す」「もし、きらいだったら話さない」の意見あり。

子どもの生活状況から“福祉ってなに？”を読み取る

1. 「福祉」をまず、子ども自身の生活領域から「あそび」「手伝い」「自分の悩みごとの解決方法」「友だちの悩みへの対応」の4つの質問項目から考察した。
2. 子どもの日常生活は、今日では、生活基盤の固定化・塾・習い事や、親の就労等により、取り巻く社会環境は大きく変化している。 子ども自身の選択肢により、自由にのびのびと自発的に行動し、子ども同士の関係づくりの基盤は薄れ、少しずつ学年が上がるごとに制約されていることが伺える。
3. 家庭環境の中で、子どもの「手伝い」の選択肢は、明確な役割分担を持ち責任感を促がし、社会に向けた自発的な行動に移行出来るように、大人社会が工夫していくことが期待される。
4. 自分自身の悩みをどのように、日常生活の中で、解決していくことが出来るかは、身近な大人社会が常に歩み寄る配慮が求められる。 特に、回答内容から、父親の存在をさらに確立していくことが問い質されている。 発達段階に応じた、友だち関係や家族関係のつながりにより、協調性を養い、思いやる心を醸成する中で、自ら問題解決方法が切り拓かれていくように感じる。
5. 全体的に、協調的心構えで、友だちの相談に応じようと歩み寄る優しさが読み取れる。 いつでも語れる環境を創り出す日頃の努力の中で、コミュニケ―ションのサポートを大人社会が側面的に関わる工夫をしていきたい。特に、 男性への積極的な関りを心がけていきたい。

３． 家庭・家族に関すること（質問６～質問１０までの５つの質問）

ここでは、24の質問項目のうち、「家庭・家族に関すること」に関して、

質問6　あなたは、家族と話をしますか。
質問7　家族とどんな時に話をしますか。
質問8　家族と話をしない理由は何ですか。
質問9　あなたは、家族の人にほめられますか。
質問 10 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。　　の5つの質問の回答結果をまとめた。

質問６　あなたは、家族と話をしますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問6	あなたは家族と話をしますか。	よく話をする	105	86%	109	90%	214	88%
		たまに話をする	15	12%	12	10%	27	11%
		ほとんど話をしない	2	2%	0	0%	2	1%
		小計	122		121		243	

家族との会話について、全体的な回答結果から、「よく話をする」88％、「たまに話をする」11％と、「話をする」回答が99％と、家族とのコミュニケーションがあり、聞く環境にはあるが、「たまに話をする」11％から、さらに家庭家族環境における、大人社会の歩み寄りの工夫が必要と感じる。男女別では、男性においては、会話の機会が少なく、学年別（年代別）では、年代とともに、会話の割合が少ない傾向がある。

家族構成別では、大きな開きはないが、やや、親子別では、祖父母同居別よりも、会話が少ない傾向がある。

質問７　家族とどんな時に話をしますか。

「家族とよく話をする」「たまには話をする」回答者から、どんな時に話をするかを問い質すと、全体的な回答結果では，「食事をしている時」が32％の多く、「土日や祝日等学校が休みの時」26％、「みんなでテレビを見てい

る時」17%、「家族で外出・旅行をしている時」12%、「一緒にお風呂に入っている時」9%、「その他（家に居る時いつでも、寝る前、家族が全員揃っている時、宿題をしている時、話さなければならない時等）」4%の順。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問７	質問６.で「①よく話をする」「②たまに話をする」に○をつけた人に聞きます。どんな時に話をしますか。	土日や祝日等学校が休みの時	74	28%	69	25%	143	26%
		食事をしている時	84	31%	90	32%	174	32%
		一緒にお風呂に入っている時	27	10%	23	8%	50	9%
		みんなでテレビを見ている時	45	17%	48	17%	93	17%
		家族で外出・旅行をしている時	31	12%	35	12%	66	12%
		その他	7	3%	16	6%	23	4%
		小計	268		281		549	

質問８　家族と話をしない理由は何ですか。

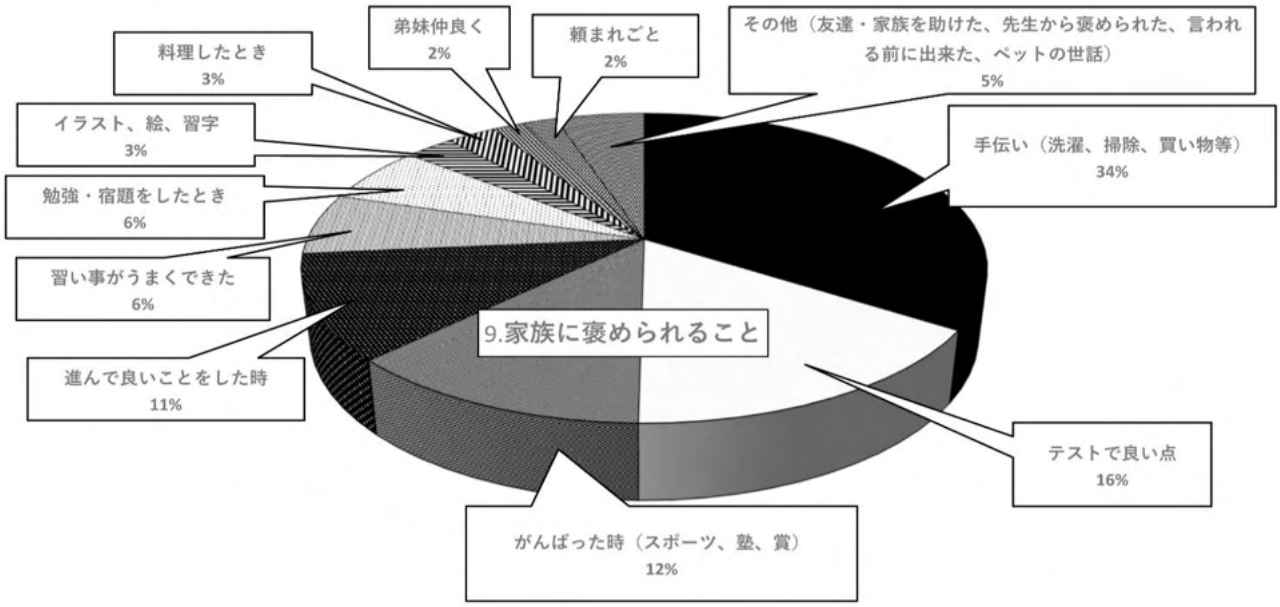
「家族とほとんど話をしない」2%の回答者からの理由は、「何を話していいかわからない」であった。

ここからも、常に、家庭家族環境においては、大人社会が、子どもたちが自由に語れる環境を保証する心掛けが求められている。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問８	質問６．で「③話をしない」に○をつけた人に聞きます。主なものを３つまで答えて下さい。	学校の勉強が忙しく家族と話す時	0	0%	0		0	0%
		話したくない	0	0%	0		0	0%
		何を話していいのかわからない	2	100%	0		2	100%
		習いごとが忙しく話す時間が無い	0	0%	0		0	0%
		その他	0	0%	0		0	0%
		小計	2		0		2	

質問９　あなたは、家族の人にほめられますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問９	あなたは，家族の人にほめられますか。	よくほめられる	30	25%	47	39%	77	32%
		ときどきほめられる	69	58%	62	51%	131	54%
		あまりほめられたことが無い	21	18%	13	11%	34	14%
		小計	120		122		242	



家族の温かい環境から、子どもは大きく心身共に成長すると感じる。 日頃の家庭生活の中で常に声をかけること、その中でも、自発性を促がすうえでは、小さな出来事でも、機会を見つけて「ほめる」ことに心掛けたい。 そうした考えから、今回の回答から、全体的な結果から「よくほめられる」32%「ときどきほめられる」54%と、約86%

は恵まれた家庭環境にあると受け止められる。

しかし，「あまりほめられたことがない」14％は、さらに大人社会が「ありがとう」のほめる環境をつくる努力が求められる。質より、こうした状況では、より多くの場を設定していきたいものである。

また、小さな出来事に目を配り、安心感を持たせ、楽しい生活を生み出す心掛けを子どもに投げかけていく大人社会のゆとりを生み出したい。

どのような時にほめられたかの回答を前ページの図でまとめた。

回答の多い順では「手伝い（洗濯・掃除・買い物）」34％、「テストでよい点をとった時」16％、「がんばった時（スポーツ・塾・入賞）」12％、「進んでよいことをしたとき」11％、「習い事がうまくできた」「勉強・宿題をしたとき」各6％、「イラスト・習字・絵が上手に描けた」「料理をした」各3％
「弟・妹の面倒をみた」「お使い」各2％と、子どもの回答からも、日常的に大人が、きめ細かく声をかけていくことが「ほめる」ことにつながっているように受けとめられる。

			人数	4年生	人数	5年生	人数	6年生
質問９	あなたは，家族の人にほめられますか。	よくほめられる	23	29%	32	35%	22	31%
		ときどきほめられる	46	58%	42	46%	43	61%
		あまりほめられたことが無い	11	14%	17	19%	6	8%
		小計	80		91		71	

ここでは、学年別（年齢別）に考察してみた。「ほめられる」傾向は、6年生は92％、4年生は87％であるが、5年生は81％と低い回答である。

			人数	祖父母同居	人数	親子のみ	人数	その他
質問９	あなたは，家族の人にほめられますか。	よくほめられる	22	29%	55	34%	0	0%
		ときどきほめられる	44	57%	86	53%	0	0%
		あまりほめられたことが無い	11	14%	22	13%	1	100%
		小計	77		163		1	

家族構成別では、「ほめられる」傾向は、祖父母同居は86％、親子のみは87％とわずかではあるが親子のみが、ほめられる場を有している家庭環境にある。

			人数	1人	人数	2人	人数	3人	人数	4人以上
質問９	あなたは，家族の人にほめられますか。	よくほめられる	10	36%	45	41%	18	24%	4	14%
		ときどきほめられる	16	57%	53	48%	43	58%	18	64%
		あまりほめられたことが無い	2	7%	13	12%	13	18%	6	21%
		小計	28		111		74		28	

兄弟姉妹別に見ると、1人93％、2人89％、3人82％、4人78％と兄弟姉妹が多くなるにつれて、家庭環境の中では、きめ細かに子供一人一人にあまり気を配る傾向にない一面がある傾向である。

質問 10 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問１０	楽しく過ごしている	84	71%	87	75%	171	73%
あなたは，毎日家族と楽しく過ごしていますか。	まあまあ楽しく過ごしている	28	24%	24	21%	52	22%
	どちらかといえば楽しく過ごしていな	2	2%	3	3%	5	2%
	楽しくない	0	0%	0	0%	0	0%
	どちらともいえない	4	3%	2	2%	6	3%
	小計	118		116		234	

子どもの生活基盤である「家庭環境」についての問いに対して、全体的には「楽しい」73％、「まあまあ楽しい」22％と「楽しい」家庭環境である回答は、95％である。「どちらかといえば楽しく過ごしていない」「どちらともいえない」が5％は気になる。家族構成（親子のみ）、兄弟姉妹関係、または家庭環境からの要因が伺える。

家庭・家族に関することから“福祉ってなに？”を読み取る

1.「福祉」の基盤は、家庭・家族であることを念頭に、家族とのコミュニケーション、子どもの好意を認め合う、楽しい家庭・家族環境の質問項目から考察した。

2. 家庭・家族とのコミュニケーションは良好な環境を維持している地域であることが理解できが、さらに、大人社会の歩み寄りの工夫と、男性においては、会話の機会が少なく、学年別（年代別）では、年代とともに会話が少ないことや、親子別では、祖父母同居別よりも会話が少ない傾向が伺えた。

3. 家族の温かい恵まれた環境から、子どもは大きく心身共に成長すると感じる。
常に声をかけることの必要性を感じる。自発性を促がし、さらに、小さな出来事にも目を配り、家庭生活の中に数多く子どもの行動を「ほめる」ことに置き換える機会を見つける心掛けをしていきたい。
日常的に大人が、きめ細かく声をかけていくことが「ほめる」ことにつながっているように受けとめられる。

4.「家庭が楽しい」回答が大半を示している地域であることは、楽しい地域環境とも置き換える。

４． 地域社会・地域活動に関すること（質問１１～質問２２までの１２の質問）

ここでは、24の質問項目のうち、「地域社会・地域活動に関すること」に関して、

質問 11　あなたは、地域でどのようなことに心掛けていますか。
質問 12　あなたは，すすんで他人のためになにかをしてあげたいと思いますか。
質問 13　あなたは、近所の人とよく話をしますか。
質問 14　あなたは、地域が行うイベントによく参加しますか。
質問 15　あなたが住んでいる地域は、とても良い地域だと思いますか。
質問 16　あなたの住んでいる地域の良いところはどこですか。
質問 17　あなたの住んでいる地域の良くないところはどこですか。
質問 18　あなたは、地域の行事参加の呼びかけがあれば参加しますか。
質問 19　あなたは、地域の人にほめられたことがありますか。
質問 20　あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。
質問 21　あなたは、日常の生活の情報はどこから得ていますか。
質問 22　あなたは、毎日の生活で、楽しい居場所はどこですか。

の12つの質問の回答結果をまとめた。

質問 11 あなたは、地域でどのようなことに心掛けていますか。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
質問１１ あなたは，地域（自治会，町内会，子ども会等）でどのようなことに心掛けていますか。主なものを３つまで答えて下さい	電車やバスの中で席を譲る	14	7%	12	6%	26	7%
	点字ブロックの上に自転車を置かない	31	16%	25	12%	56	14%
	体の不自由な人に道路を譲る	12	6%	20	10%	32	8%
	困っている人に声をかける	19	10%	32	16%	51	13%
	自分から進んであいさつをする	82	43%	83	41%	165	42%
	わからない	21	11%	18	9%	39	10%
	特に何もしない	7	4%	10	5%	17	4%
	その他	4	2%	3	1%	7	2%
	小計	190		203		393	

日頃、身近な地域で、子どもたちたちは、どのようなことに心掛けているかを問い質した。

全体の回答結果では、「自分から進んであいさつをする」42％で一番多い回答である。次に、「点字ブロックの

上に自転車を置かない」14%、「困っている人に声をかける」13%、「わからない」10%、「体の不自由な人に道路を譲る」8%、「電車やバスの中で席を譲る」7%、「特に何もしない」4%、「その他」2%の回答順であった。

「その他」の回答では、「一年生に安全に歩行できるようにする」「妊婦さんや高齢者、大変そうな人に席を譲る」「いろいろなことに目標を持つ」「横断歩道を通るとき、止まってくれた車にお辞儀をする」「危険なことが有ったら先生に報告する」「車に注意する」「地域の清掃に参加をする」といった、より具体的な回答があった。

今回の調査結果から、子どもたちは、地域社会に向けて、コミュニケーションに心掛けていることが伺える。

こうした努力を、まず、家庭において心掛けるとともに、大人社会は、日頃から子どもたちは挨拶もできないと否定的な受け止め方をすることなく、どのように子どもたちに向かって、自然に働きかけていけばよいか工夫していくことが求められる。　男女別においても、全体の結果と大きな違いは見られない。

		人数	4年生	人数	5年生	人数	6年生
質問１１ あなたは，地域（自治会，町内会，子ども会等）でどのようなことに心掛けていますか。主なものを３つまで答えて下さい	電車やバスの中で席を譲る	8	6%	8	6%	10	8%
	点字ブロックの上に自転車を置かない	13	10%	22	15%	21	17%
	体の不自由な人に道路を譲る	12	9%	9	6%	11	9%
	困っている人に声をかける	21	16%	15	10%	15	12%
	自分から進んであいさつをする	51	40%	66	46%	48	39%
	わからない	15	12%	13	9%	11	9%
	特に何もしない	4	3%	8	6%	5	4%
	その他	4	3%	2	1%	1	1%
	小計	128		143		122	

日頃、心掛けていることはなにか、学年別の回答結果では、4年生は、「自分から進んであいさつをする」40%で一番多い回答である。次に、「困っている人に声をかける」16%、「わからない」12%、「点字ブロックの上に自転車を置かない」10%、「体の不自由な人に道路を譲る」9%、「電車やバスの中で席を譲る」6%、「特に何もしない」3%、「その他」3%。　5年生では、「自分から進んであいさつをする」46%で一番多い回答である。次に、「点字ブロックの上に自転車を置かない」15%、「困っている人に声をかける」10%、「わからない」9%、「体の不自由な人に道路を譲る」「電車やバスの中で席を譲る」「特に何もしない」各6%、「その他」1%。

6年生では、「自分から進んであいさつをする」39%で一番多い回答である。次に、「点字ブロックの上に自転車を置かない」17%、「困っている人に声をかける」12%、「わからない」「体の不自由な人に道路を譲る」9%、「電車やバスの中で席を譲る」8%、「特に何もしない」4%、「その他」1%と、多少異なる回答結果となっている。

「自分から進んであいさつをする」は、全ての学年で一番回答の多い。

二番目の回答は、4年生は、「困っている人に声をかける」16%、5年生15%、6年生17%で、共に「点字ブロックの上に自転車を置かない」である。

三番目の回答は、4年生「体の不自由な人に道路を譲る」9%、5･6年生「困っている人に声をかける」。

質問 12　あなたは，すすんで他人のためになにかをしてあげたいと思いますか。

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問１２ あなたは，すすんで他人のためになにかをしてあげたいと思いますか	そう思う	72	60%	84	69%	156	65%
	そう思わない	6	5%	4	3%	10	4%
	どちらともいえない	17	14%	17	14%	34	14%
	わからない	25	21%	16	13%	41	17%
	小計	120		121		241	

進んで他人のためになにかをしてあげたいと思うかの質問に対して、全体的回答では、「そう思う」65%で一番回答が多く、思いやりのある優しい心を持った子どもたちが多い地域であることが伺える。　この心掛けが持続でき、成功体験ができる、地域に役立つ実践活動ができる地域づくりを大人社会が努力していくことが求められる。次に「わからない」17%、「どちらともいえない」14%、「そう思わない」4%。

男女別では、男性の「わからない」21%に対して、女性は13%と、女性の方が前向きな回答傾向にある。

			人数	4年生	人数	5年生	人数	6年生
質問１２	あなたは，すすんで他人のためになにかをしてあげたいと思いますか	そう思う	48	59%	56	62%	52	75%
		そう思わない	2	2%	7	8%	1	1%
		どちらともいえない	10	12%	12	13%	12	17%
		わからない	21	26%	16	18%	4	6%
		小計	81		91		69	

学年別（年代別）に考察をすると、「わからない」の回答は、4年生26％、5年生18％、6年生6％と理解の差がみられるとともに、学年が上がるに従い前向きな回答がみられる。 家族構成別では、大きな変化は見られない。

質問 13　あなたは、近所の人とよく話をしますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問１３	あなたは，近所の人と話をしますか	よく話す	23	19%	27	22%	50	21%
		あいさつをするくらい	72	60%	76	63%	148	61%
		話をしない	19	16%	14	12%	33	14%
		誰が住んでいるのかわからない	7	6%	4	3%	11	5%
		小計	121		121		242	

近所の人と話をするかの質問に、全体的回答結果では、「挨拶ぐらいはする」61％と一番多い回答である。

次に「よく話す」21％、「話をしない」14％、「誰が住んでいるかわからない」5％。

この結果から、大人社会が、積極的に子どもたちに呼び掛けられる環境づくりに心掛けていくことが求められる。

つまり、「語れる環境」にしていくことが地域社会の課題としてあげられる。

男女別に見ると、「よく話す」は、女性の22％に対して、男性は19％。「あいさつをするくらい」も、女性63％に対して男性60％、また、「話をしない」は、男性16％に対して、女性は12％であることから、男性は、コミュニケーションは消極的傾向にある。

地域社会への積極的な参加については、女性の方が積極的な傾向である。

日頃から、家庭における男性のコミュニケーション力を養う場を大人社会が提供できる環境を考えていきたい。

			人数	4年生	人数	5年生	人数	6年生
質問１３	あなたは，近所の人と話をしますか	よく話す	21	26%	14	15%	15	22%
		あいさつをするくらい	47	57%	59	65%	42	61%
		話をしない	10	12%	14	15%	9	13%
		誰が住んでいるのかわからない	4	5%	4	4%	3	4%
		小計	82		91		69	

学年別の回答結果では、「よく話す」「あいさつぐらいはする」等「前向きに話す機会を持つ」回答では、4年生283％、6年生83％、5年生80％の結果である。 「話をしない」5年生15％、6年生13％、4年生12％。

ここでは、5年生の回答から、やや消極的回答傾向が伺えた。

			人数	祖父母同居	人数	親子のみ	人数	その他
質問１３	あなたは，近所の人と話をしますか	よく話す	15	19%	35	21%	0	0%
		あいさつをするくらい	46	60%	100	61%	1	100%
		話をしない	14	18%	19	12%	0	0%
		誰が住んでいるのかわからない	2	3%	9	6%	0	0%
		小計	77		163		1	

近所の人と話をするかを家族構成別に考察すると、「よく話す」「あいさつをするくらい」等、「前向きに、近所の人と話す」回答傾向は、「親子のみ」82％に対して、「祖父母同居」79％と、やや、「祖父母同居」の子どもの回答は消極的回答である。 近所づきあいが祖父母により広がっているかと感じていたが、親子のみの子どもも、常に近所の人との交流に心掛けている傾向にある。

兄弟姉妹別の回答結果では、「前向きに交流に努めている傾向」は、2人90％、4人以上81％、3人78％、1人61％と、やや大きな開きがみられる。

特に、1人の家庭における、大人社会の近所との交流の工夫があげられる。

		人数 1人		人数 2人		人数 3人		人数 4人以上	
質問１３ あなたは，近所の人と話をしますか	よく話す	5	18%	24	22%	13	18%	8	26%
	あいさつをするくらい	12	43%	75	68%	43	60%	17	55%
	話をしない	8	29%	9	8%	14	19%	2	6%
	誰が住んでいるのかわからない	3	11%	2	2%	2	3%	4	13%
	小計	28		110		72		31	

質問 14　あなたは、地域が行うイベントによく参加しますか。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
質問１４ あなたは，地域（自治会，町内会，子ども会等）が行う行事に参加していますか	よく参加している	38	31%	48	40%	86	36%
	時々参加している	54	45%	46	39%	100	42%
	あまり参加していない	17	14%	21	18%	38	16%
	まったく参加していない	12	10%	4	3%	16	7%
	小計	121		119		240	

厳しい社会状況の中で、子どもたちの社会性を高める地域行事の参加状況を問い質した。全体的な回答結果では、「よく参加している」36％、「時々参加している」42％と、「積極的な参加傾向」の回答が78％程度。

この結果から、大人社会は、さらに魅力ある行事の継続化に取り組む課題がある。「消極的回答」は23％程度ある。 男性の積極的参加76％に対して、女性は79％と、やや女性の方が積極的な回答結果である。

		人数 4年生		人数 5年生		人数 6年生	
質問１４ あなたは，地域（自治会，町内会，子ども会等）が行う行事に参加していますか	よく参加している	31	38%	34	39%	21	30%
	時々参加している	31	38%	36	41%	33	47%
	あまり参加していない	13	16%	13	15%	12	17%
	まったく参加していない	7	9%	5	6%	4	6%
	小計	82		88		70	

これを、学年別（年代別）の結果で見ると、「積極的参加傾向」は、5年生80％、6年生77％、4年生76％と、5年生の地域行事への参加が一番高く、6年生よりも積極的であることが伺える。 家族構成別では、大きな変化は見られない。 兄弟姉妹関係は、意外と1人81％と高く、次に2人80％、3人78％、4人以上64％の回答結果。

		人数 祖父母同居		人数 親子のみ		人数 その他	
質問１４ あなたは，地域（自治会，町内会，子ども会等）が行う行事に参加していますか	よく参加している	24	31%	60	37%	1	100%
	時々参加している	35	45%	65	40%	0	0%
	あまり参加していない	12	16%	26	16%	0	0%
	まったく参加していない	6	8%	10	6%	0	0%
	小計	77		161		1	

		人数 1人		人数 2人		人数 3人		人数 4人以上	
質問１４ あなたは，地域（自治会，町内会，子ども会等）が行う行事に参加していますか	よく参加している	10	37%	46	42%	25	35%	5	17%
	時々参加している	12	44%	42	38%	31	43%	14	47%
	あまり参加していない	4	15%	16	15%	11	15%	7	23%
	まったく参加していない	1	4%	6	5%	5	7%	4	13%
	小計	27		110		72		30	

質問 15　あなたが住んでいる地域は、とても良い地域だと思いますか。

子どもたちに、それぞれの地域の良さを問い質した結果、全体的な回答結果では、「とても良い」41％、「良い」45％と、「良い地域」との回答は、86％と高い。 「わからない」12％、「良くない」2％であった。

子どもたちにとって、管内の地域は、「良い地域」と回答していることについて、常に、大人社会が子どもを地域社会につなげている努力の一面が伺える。また、子どもたちにとっては、成長段階における貴重な社会体験の学び合いの機会にもなっている。 しかし、厳しいコロナ禍下にあって、昨年度の「ご近所福祉その意識と実態調査」結果では、大人社会の地域コミュニティへの希薄化が浮き彫りになっている。 子どもたちが望む「地域の良さ」を大人社会は努力し、子どもたちに福祉を育む地域づくりに向けて、積極的に取り組むことが求められる。

地域の状況が 「わからない」回答については、常に、大人社会が地域とのつながりを持ち、子どもたちに積極的に地域を知る機会を持つことが大切である。

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問１５	とても良い	51	42%	48	40%	99	41%
あなたが住んでいる地域は，良い地域だと思いますか	良い	54	44%	55	45%	109	45%
	あまり良くない	1	1%	2	2%	3	1%
	よくない	1	1%	2	2%	3	1%
	わからない	15	12%	14	12%	29	12%
	小計	122		121		243	

男女別回答は、全体的回答と大きな違いはない。　学年別の「良い地域」との回答結果は、5年生92%、6年生83%、4年生81%であった。 質問14の「地域のイベント参加」の回答結果で、「積極的参加傾向」は、5年生80%、6年生77%、4年生76%と、5年生の地域行事への参加が一番高い回答結果との関係がつながるのではないかと感じる。 積極的に地域参加をすることで地域の良さが体得していることでもある。

		人数	４年生	人数	５年生	人数	６年生
質問１５	とても良い	29	35%	46	51%	24	34%
あなたが住んでいる地域は，良い地域だと思いますか	良い	38	46%	37	41%	34	49%
	あまり良くない	1	1%	0	0%	2	3%
	よくない	2	2%	1	1%	0	0%
	わからない	12	15%	7	8%	10	14%
	小計	82		91		70	

質問 16　あなたの住んでいる地域の良いところはどこですか。

ここでは、質問15に関連して、「地域の良さ」を回答した具体的な内容である。

全体的回答で多い順にあげると「近所の人が優しい」27%、「遊ぶ場所がある」21%、「犯罪が少ない」14%、「自然が多い」12%、「静かな場所」11%、「交通事故が少ない」8%、「地域の行事が多い」3%、「交通の便が良い」2%、「その他」2%。 その他の回答では、「明るい」「お店が多くて便利」「近所に友達がいる」「助け合いが出来る」「にぎやか」「道のゆずりあい」等、管内は、長年の大区画整理事業により発展し、新興住宅地化している状況がこうした子ども対象の調査結果からも伺える。 男女別回答結果から読み取れることは、男女とも「近所の人が優しい」回答は多いが、その中でも女性の回答の方が多い。「遊ぶ場所」は、男性の回答が女性より多い。

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問１６	自然が多い	26	12%	28	12%	54	12%
質問15.で「①とても良い」「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いですか。主なものを３つまで答えて下さい	近所の人が優しい	53	24%	68	29%	121	27%
	犯罪が少ない	32	15%	30	13%	62	14%
	交通事故が少ない	17	8%	20	8%	37	8%
	静かな場所	23	11%	28	12%	51	11%
	地域の行事が多い	7	3%	7	3%	14	3%
	交通の便が良い	6	3%	5	2%	11	2%
	遊ぶ場所がある	50	23%	46	19%	96	21%
	その他	5	2%	4	2%	9	2%
	小計	219		236		455	

質問 17　あなたの住んでいる地域の良くないところはどこですか。

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問１７	自然が少ない	0	0%	1	10%	1	8%
質問15.で「あまり良くない」「良くない」と答えた人は，どんな点が良くないですか。主なものを３つまで答えて下さい	近所の人から怒られる	0	0%	0	0%	0	0%
	近所の人と交流がない	0	0%	1	10%	1	8%
	犯罪が多い	0	0%	0	0%	0	0%
	交通事故が多い	0	0%	1	10%	1	8%
	騒音がうるさい	1	33%	0	0%	1	8%
	交通の便が悪い	0	0%	1	10%	1	8%
	地域の行事が少ない	0	0%	1	10%	1	8%
	遊ぶ場所がない	1	33%	3	30%	4	31%
	その他	1	33%	2	20%	3	23%
	小計	3		10		13	

ここでは、質問15に関連して、「地域の良くないところ」を回答した具体的な内容である。

全体的回答で多い順にあげると「遊ぶ場所がない」31％は、ハード面の公園整備につながる回答と感じる。

管内でも、公園整備につながらない地域環境からの回答とも感じる。「その他（津波が心配、老人の運転が危ない）」23％が目立つ回答である。 子どもによっては、小地域の地域環境からの回答と受け止められる。

男性の回答に「騒音がうるさい」がある。

質問 18　あなたは、地域の行事参加の呼びかけがあれば参加しますか。

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問１８ あなたは，地域（自治会・町内会・子ども会等）の行事参加の呼び掛けがあれば参加しますか	ぜひ，参加したい	23	19%	20	17%	43	18%
	出来る範囲で参加したい	64	53%	83	70%	147	62%
	参加したくない	12	10%	9	8%	21	9%
	わからない	21	18%	6	5%	27	11%
	小計	120		118		238	

今回の調査活動の重点的質問項目の一つである。

厳しいコロナ禍下、閉鎖的な地域環境により、子どもたちの活動範囲が制約され、積極的な地域活動が阻止されることによる、地域の人たちとのふれあい交流から育まれる「福祉の心」がいかに閉ざされるか、気になることである。 そこで、こうした環境に対して、子どもたちの心境はどうかを問い質すことにした。

閉ざされた地域環境を特に気にしないか、それとも、開放的な地域環境を期待し、積極的な地域参加を望んでいるかの回答結果と受け止めた。

全体的な結果では、「地域参加」を「ぜひ参加したい」と回答した子どもは18％で、女性よりも、男性の回答が多い。「できる範囲で参加したい」回答は62％で、男性の53％に対して女性は70％である。 この回答では、子どもを取り巻く生活環境からの判断（習い事等）からの回答とも受け止められる。

「積極的な地域参加傾向」の回答は80％と高い。女性は87％に対して、男性は72％である回答結果から見ると、女性の方が、強く地域参加の機会を求めている傾向にある。「わからない」の回答は、全体で11％ある。 厳しいコロナ禍下、地域環境を気にした回答とも受け止めることが出来る。

社会の厳しい状況からの回答と、もう一つ考察していきたい一面として「地域の行事の魅力」を取り上げていきたい。 子どもが関心を持つ行事であるかの検討もしていきたい。 マンネリ化した行事から、子どもたちの気持ちを組み入れた行事の工夫を大人社会が心掛けているかの課題を提起していきたい。 子どもの目線で交流できる地域行事、また、子ども主体・運営による地域行事の工夫は、近い将来につなげられる、若者の地域離れを防ぎ、大人社会との子ども社会の融合によるまちづくりにつながり、「福祉意識」が高まる一つになると考える。

このことは、「参加しない」「わからない」20％の回答からも、考察したい考えである。

		人数	4年生	人数	5年生	人数	6年生
質問１８ あなたは，地域（自治会・町内会・子ども会等）の行事参加の呼び掛けがあれば参加しますか	ぜひ，参加したい	17	22%	18	20%	8	12%
	出来る範囲で参加したい	48	61%	51	57%	48	70%
	参加したくない	3	4%	10	11%	8	12%
	わからない	11	14%	11	12%	5	7%
	小計	79		90		69	

学年別（年代別）に見ると、「積極的な地域参加傾向」は、4年生83％、6年生82％、5年生77％の順で、4年生がこうした社会状況にあって、地域の行事への参加を強く望んでいることがわかる。

		人数	祖父母同居	人数	親子のみ	人数	その他
質問１８ あなたは，地域（自治会・町内会・子ども会等）の行事参加の呼び掛けがあれば参加しますか	ぜひ，参加したい	11	15%	31	19%	0	0%
	出来る範囲で参加したい	49	65%	97	60%	1	100%
	参加したくない	6	8%	15	9%	0	0%
	わからない	9	12%	18	11%	0	0%
	小計	75		161		1	

家族構成別に地域参加の動向を見ると、祖父母同居では、「積極的な参加傾向」は80％、親子のみでは、79％とやや、祖父母同居は、祖父母が地域とのつながりをつくっている環境にあるとも受け止められる。

		人数 1人		人数 2人		人数 3人		人数 4人以上	
質問１８ あなたは，地域（自治会・町内会・子ども会等）の行事参加の呼び掛けがあれば参加しますか	ぜひ，参加したい	3	11%	25	23%	12	17%	2	7%
	出来る範囲で参加したい	19	70%	66	61%	43	60%	19	63%
	参加したくない	3	11%	8	7%	8	11%	2	7%
	わからない	2	7%	9	8%	9	13%	7	23%
	小計	27		108		72		30	

兄弟姉妹別を見ると、「積極的な参加傾向」は、一人81％、2人84％、3人77％、4人以上70％で、2人または1人の関係の方が、地域の行事への積極的な参加が伺える。

質問 19　あなたは、地域の人にほめられたことがありますか。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
質問１９ あなたは，地域の人にほめられたことがありますか	ある	39	32%	40	33%	79	33%
	ない	83	68%	81	67%	164	67%
	小計	122		121		243	

子どもを取り巻く大人社会は、いかに子どもたちへの関りを持っているかを「地域の人にほめられる」側面から考察した結果、全体的な回答結果からは、「地域の人にほめられたことがない」67％と多い回答であった。

「地域の人にほめられたことがある」33％であった。

これまで、よく、大人社会からは、声をかけても返事もない、反応がない、積極性に乏しいなどの意見を聞いてきたが、改めて、今回の調査を通じて考えていかなければならないことは、常日頃から、積極的に大人社会から、子どもたちに声をかけ、安心できる地域環境をつくる努力をどこまで取り組んできたかを振り返ることも、こうした時期に考えてみたい。

先に考察した質問13[近所の人と良く話をしますか]の回答結果から、「よく話をする」が21％、「あいさつ程度」61％の回答などから、総合的に考察できることは、大人社会は、常日頃から、子どもへの歩み寄りを積極的に働きかけていたかの反省点に立ち、今一度、「語れる地域環境づくり」に向けた、地域ぐるみの取り組みとして、大人社会の努力が求められているように感じる。

つまり、子どもたちを育む地域づくりに、これまで以上に、大人社会は子どもたちに働きかけていく課題がある。

		人数 4年生		人数 5年生		人数 6年生	
質問１９ あなたは，地域の人にほめられたことが	ある	29	35%	26	29%	24	34%
	ない	53	65%	65	71%	46	66%
	小計	82		91		70	

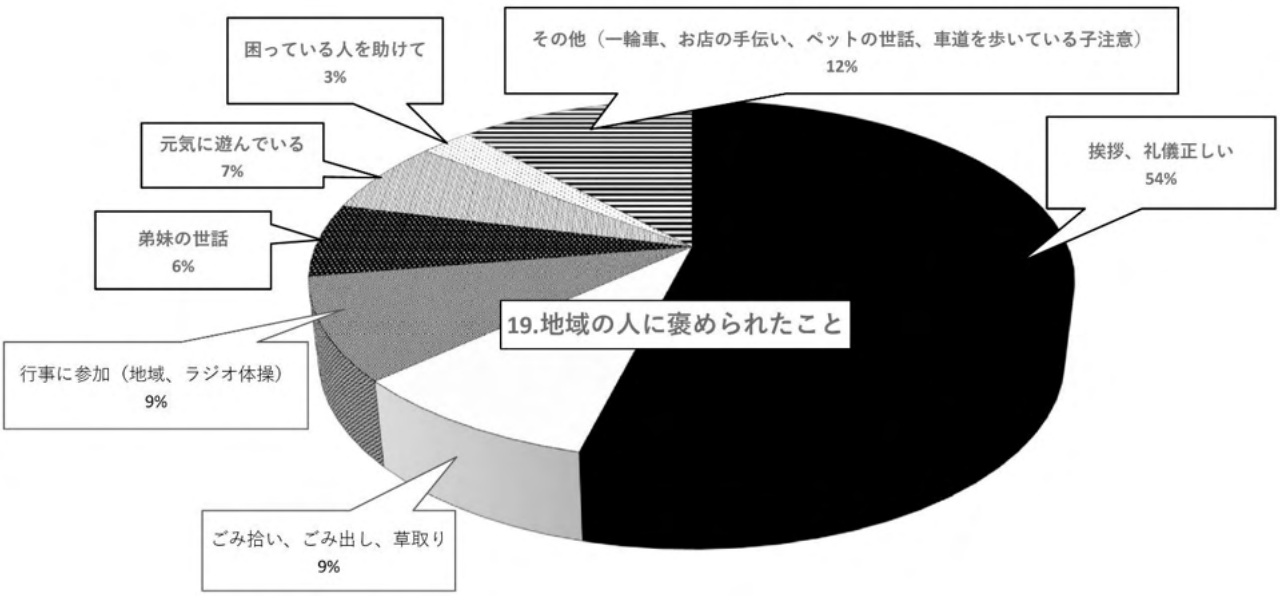
学年別に見ると、4年生は、中でも、一番大人社会からの声掛けがあり「ほめられる」機会を多く持っているように伺える。 次に6年生34％、そして、5年生29％の結果である。学年別の考察から読み取れることは、年齢を問わず、子どもには機会あるごとに、歩み寄り、声を掛け合える地域環境に心掛けていきたい。

		人数 祖父母同居		人数 親子のみ		人数 その他	
質問１９ あなたは，地域の人にほめられたことがありますか	ある	25	32%	54	33%	0	0%
	ない	52	68%	110	67%	1	100%
	小計	77		164		1	

家族構成別に見ると、親子のみの子どもの方が「ほめられる」ことが多いと受け止められる。

「ほめられた」33％の回答から、「ほめられた内容」をまとめると、下のグラフの通りである。

一番多い内容は「挨拶・礼儀正しい」54％、次に「その他（特技をほめられた、手伝い、ペットの世話、交通マナーを注意等）」12％、「ご見出し、ゴミ拾い、草取り等家事労働」9％、「地域の行事に参加」9％、「弟妹の世話」6％、「元気に遊ぶ」7％、「困っている人を手助け」3％。 地域の子どもに、日頃から声を掛け合う中で、子どもたちの社会性は大きく伸びていくように受け止められる。



質問 20　あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
質問２０ あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか	知っている	99	83%	109	91%	208	87%
	知らない	20	17%	11	9%	31	13%
	小計	119		120		239	

		人数 ４年生		人数 ５年生		人数 ６年生	
質問２０ あなたは、「赤い羽根共同募金」のこと	知っている	71	88%	75	83%	62	91%
	知らない	10	12%	15	17%	6	9%
	小計	81		90		68	

本会は、この3年間、市民からの尊い赤い羽根共同募金により、よりよい地域づくりをめざして、積極的に地域活動に取り組んでいる。 今回の調査は「福祉ってなに？」をもとに取り組んでいることから、重点的調査項目として「赤い羽根共同募金」について問い質すことにした。

全体的回答結果では、「知っている」87%、「知らない」13%であった。 すでに、学校教育において、関連した学習が行われていることから、今回の調査では、子どもの回答から「赤い羽根共同募金」の理解度を含めた回答傾向とも受け止められる。 回答者の中では、コメントとして「名称」の理解はあるが、「どのような内容」であるかの理解が出来ていないと質している回答者もいた。 男女別では、「知っている」は、女性の91%に対して、男性は83%であった。 また、学年別（年代別）では、「知っている」は、6年生91%、4年生88%、5年生83%であった。意外と、5年生より4年生の方が「赤い羽根共同募金」への関心が高いようにも伺えた。

この「赤い羽根共同募金」の回答結果を通じて、改めて、大人社会に向けた課題提起をあげることが出来る。

身近な 「戸別募金」を通じて、家族や家庭内で赤い羽根共同募金の仕組みを話題にしていくこともできる。しかしながら、今日では、その都度個別に「赤い羽根共同募金」を集める状況にはなっていない。

自治会・町内会は、時期が来れば、各世帯から徴収した町内会費をもって一括して、まとめて処理する時代にもなり、本当の意味で、募金活動が展開されていないため、表面化していない一面がある。 また「職域募金」を通じて、家庭内でも話題にしたいところである。 「学校募金」は、子どもの日頃の小遣いからの協力も話題としたいものである。 こうした行動が「福祉ってなに？」につながることを期待したい。

学校教育だけに委ねることなく、地域や家庭・家族領域において、「赤い羽根共同募金活動」を通じて、福祉を学ぶことが出来る。　これまでの、長い歴史の中で、市民が主体となった福祉活動の意義を、単に理論だけの学びから、社会の仕組み・営みの中で、実践的に学び合うことは重要なことでもある。

質問 21　あなたは、日常の生活の情報はどこから得ていますか。

この質問も、今回の調査活動の重点的質問項目である。

ネット時代を迎え、果たして、子どもたちは、福祉に関する情報はどのように得ているか、新たな情報時代に向けた関心ごとでもある。

全体の回答では、「家族」33%、「学校」「ラジオ・テレビ」各15%、「友だち」14%、「ネット」9%、「回覧版」6%、「公民館だより」3%、「新聞」「市広報誌」「スーパー等掲示板」「自治会・町内会広報誌」「「口コミ」「チラシ」各 1%の順であった。 男女別で、目立った回答では、「ネット」は、男性の11%に対して、女性は6%と低い。

「回覧版」の回答では、女性の8%に対して男性は3%である。

上位ではないが、「ネット」の回答があることは、今日の時代を物語っている。 今後に向けた情報提供の仕組みが大きく変化が出てくることが予測される。 しかし、「家族」「学校」の回答が上位を占めていることから、大人社会が、子どもたちに、日頃から、わかりやすく、身近な地域社会の出来事を伝えていくことが求められている。

「回覧版」の回答があったことは、身近な情報を、子どもたちにも目を通すことが出来る家庭環境を維持していることが伺える。

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
質問２１	家族	84	32%	98	33%	182	33%
	友だち	40	15%	40	14%	80	14%
	ラジオ・テレビ	47	18%	38	13%	85	15%
	ネット	29	11%	19	6%	48	9%
	新聞	5	2%	3	1%	8	1%
あなたは、身近な地域の情報はどこから得ていますか。主なものを３つまで答えて下さい	市広報誌	2	1%	6	2%	8	1%
	回覧板	8	3%	24	8%	32	6%
	学校	38	14%	45	15%	83	15%
	公民館だより	4	2%	10	3%	14	3%
	スーパー・商店等の掲示板	2	1%	2	1%	4	1%
	自治会・町内会発行広報誌	1	0%	2	1%	3	1%
	口コミ	1	0%	4	1%	5	1%
	チラシ	4	2%	3	1%	7	1%
	その他	0	0%	0	0%	0	0%
	特にない	0	0%	0	0%	0	
	小計	265		294		559	

学年別では、年代とともに「ネット」「ラジオ・テレビ」の回答が多くなっていることが伺える。

「学校」からの情報は、4年生が多く回答しているが、年代とともに少ない回答である。

		人数	４年生	人数	５年生	人数	６年生
質問２１	家族	58	30%	68	33%	56	32%
	友だち	27	14%	27	13%	26	15%
	ラジオ・テレビ	23	12%	31	15%	31	18%
	ネット	12	6%	14	7%	22	13%
あなたは、身近な地域の情報はどこから得ていますか。主なものを３つまで答えて下さい	新聞	1	1%	3	1%	4	2%
	市広報誌	4	2%	2	1%	2	1%
	回覧板	15	8%	11	5%	6	3%
	学校	36	19%	27	13%	20	11%
	公民館だより	5	3%	5	2%	4	2%
	スーパー・商店等の掲示板	1	1%	2	1%	1	1%
	自治会・町内会発行広報誌	1	1%	1	0%	1	1%
	口コミ	2	1%	1	0%	2	1%
	チラシ	4	2%	3	1%	0	0%
	特にない	4	2%	8	4%	1	1%
	小計	193		203		176	

家族構成別では、「家族」からの情報は、「祖父母同居」35%に対して、「親子」30%である。

「友だち」からの回答は、「親子」が16％で「祖父母同居」は9％と少ない回答である。

質問２１		人数	祖父母同居	人数	親子のみ	人数	その他
あなたは、身近な地域の情報はどこから得ていますか。主なものを３つまで答えて下さい	家族	61	35%	119	30%	1	33%
	友だち	16	9%	63	16%	0	0%
	ラジオ・テレビ	26	15%	57	14%	1	33%
	ネット	13	8%	35	9%	0	0%
	新聞	1	1%	7	2%	0	0%
	市広報誌	1	1%	7	2%	0	0%
	回覧板	10	6%	22	6%	0	0%
	学校	29	17%	53	13%	1	33%
	公民館だより	7	4%	7	2%	0	0%
	スーパー・商店等の掲示板	3	2%	1	0%	0	0%
	自治会・町内会発行広報誌	1	1%	2	1%	0	0%
	口コミ	0	0%	5	1%	0	0%
	チラシ	2	1%	5	1%	0	0%
	その他	0	0%	0	0%	0	0%
	特にない	2	1%	11	3%	0	0%
	小計	172		394		3	

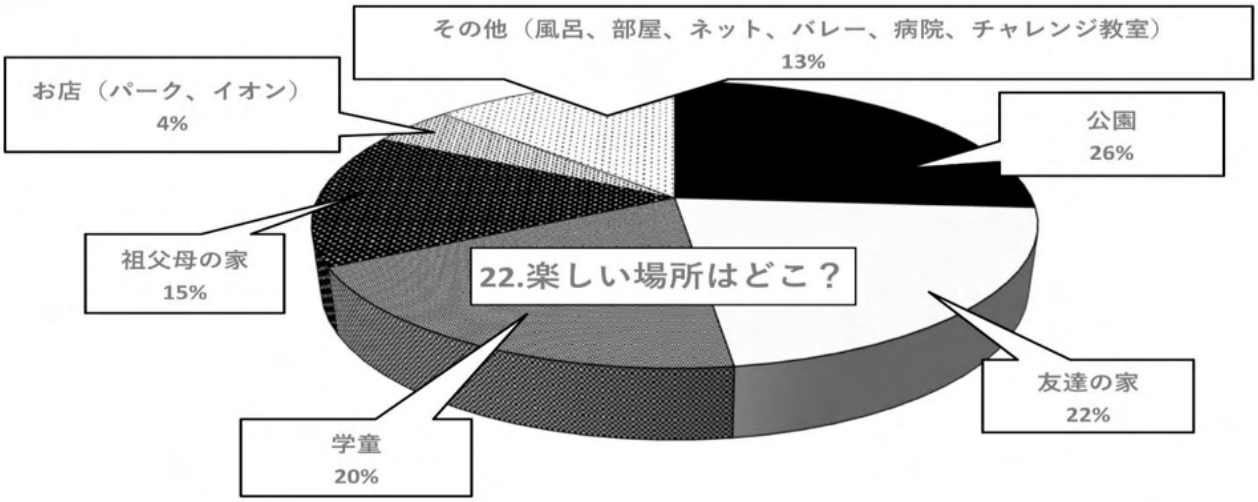
兄弟姉妹別の回答結果から、読み取れるのは、比較的、兄弟が多いほど「家族」からの情報入手が多いことが伺える。「ネット」は、特に「1人」が15％と高い回答である。 また、「学校」の回答は1人は一番い回答である。

質問２１		人数	１人	人数	２人	人数	３人	人数	４人以上
あなたは、身近な地域の情報はどこから得ていますか。主なものを３つまで答えて下さい	家族	17	28%	85	32%	57	33%	22	31%
	友だち	5	8%	41	16%	25	14%	9	13%
	ラジオ・テレビ	10	16%	35	13%	26	15%	14	20%
	ネット	9	15%	18	7%	16	9%	5	7%
	新聞	1	2%	3	1%	4	2%	0	0%
	市広報誌	1	2%	2	1%	4	2%	0	0%
	回覧板	1	2%	17	6%	8	5%	5	7%
	学校	12	20%	40	15%	22	13%	9	13%
	公民館だより	1	2%	6	2%	6	3%	1	1%
	スーパー・商店等の掲示板	2	3%	2	1%	0	0%	0	0%
	自治会・町内会発行広報誌	1	2%	1	0%	1	1%	0	0%
	口コミ	0	0%	3	1%	1	1%	1	1%
	チラシ	0	0%	6	2%	1	1%	0	0%
	その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	特にない	1	2%	5	2%	3	2%	4	6%
	小計	61		264		174		70	

質問 22　あなたは、毎日の生活で、楽しい居場所はどこですか。

厳しいコロナ禍下、そして、大人社会の地域コミュニティ意識が希薄化が浮き彫りになっている、子どもたちを取り巻く環境について、子どもたちに「楽しい居場所」を問い質した。 全体的な回答結果から、一番楽しい居場所は「家」42％であった。 次に「学校」20％、「習い事」17％、「その他（お店・友だちの家・祖父母の家・公園・学童保育）」9％、［近所］5％、「ない」2％の回答順であった。 男女別で、目立った点は、女性は「近所」7％と、男性の2％を大きく上回っている。 意外と、男性は、女性よりも「家」の回答が多い。

質問２２		人数	男性	人数	女性	人数	全体
あなたは、毎日の生活で、楽しい場所はどこですか。主なものを３つまで答えて下さい	家	110	45%	103	39%	213	42%
	学校	60	25%	73	28%	133	26%
	習いごと	45	18%	40	15%	85	17%
	近所	6	2%	18	7%	24	5%
	その他	19	8%	25	9%	44	9%
	ない	4	2%	5	2%	9	2%
	小計	244		264		508	



学年別回答結果から、 どの学年も「家」を同じ割合で一番楽しい居場所と回答している。 次に「学校」も同じような回答傾向にある。 習い事では、5年生が一番多く回答し、次に6年生、4年生の順。 家族構成別では、祖父母同居の回答では「家」46％が、親子40％を上回った回答状況である。

			人数	４年生	人数	５年生	人数	６年生
質問２２	あなたは、毎日の生活で、楽しい場所はどこですか。主なものを３つまで答えて下さい	家	71	43%	78	41%	64	42%
		学校	41	25%	48	25%	44	29%
		習いごと	21	13%	38	20%	26	17%
		近所	11	7%	6	3%	7	5%
		その他	18	11%	18	9%	8	5%
		ない	4	2%	2	1%	3	2%
		小計	166		190		152	

			人数	祖父母同居	人数	親子のみ	人数	その他
質問２２	あなたは、毎日の生活で、楽しい場所はどこですか。主なものを３つまで答えて下さい	家	71	46%	140	40%	1	50%
		学校	37	24%	95	27%	0	0%
		習いごと	25	16%	59	17%	0	0%
		近所	8	5%	16	5%	0	0%
		その他	14	9%	29	8%	1	50%
		ない	1	1%	8	2%	0	0%
		小計	156		347		2	

地域社会・地域活動から“福祉ってなに？”を読み取る

1. これまで、本調査では「子ども自身の生活」「家族・家庭の関り」から、「福祉ってなに？」の側面を浮き彫りにしてきた。 ここでは、12の質問項目の「地域社会、地域参加活動の関り」から、子どもたちの「福祉観」を浮き彫りにし、取り巻く大人社会への問題提起とする考察をした。
2. 子どもたちの意識の中には、自ら、地域社会に向けて、コミュニケーションに心掛けていることが伺える。ご近所との関係も含め、こうした意識をさらに実践につなげるためには、大人社会は、家庭においける心掛けとともに、近所づきあいを通じて、広く地域社会において、子どもたちに向けた自然な働きかける努力が求められる。
3. 「思いやりの心」を持っている子どもたちが管内には多いことが回答結果から伺える。
こうした気持ちを実践し、成功体験につなげ、地域に役立つことが出来る地域環境をいかに維持していくかこれからの大人社会への課題と受け止めることが出来る。

4. 厳しいコロナ禍により、地域行事はなくなり、または中止が続いている。
これまでの地域づくりは、住民の地域参加の機会を多くつくり、世代を超えた地域交流により、地域ぐるみの支え合いの環境が生まれてくる。 今回の回答から、管内の子どもたちの地域行事（イベント）への参加は、約8割と積極的である。 ここでも、男性より、女性の方が地域参加の傾向は積極的なことが伺える。こうした厳しい社会環境にあって、子どもたちに「地域の行事の呼びかけ」に対して、約8割が参加を望んでいることがわかった。
5. 地域の住みよさを問い質し、果たして、子どもたちの福祉の心を育む地域であるかを、子どもたちから回答いただいた結果、約9割の子どもから「良い地域」と回答があった。 その内容は「近所の人が優しい」が最も多く27％の回答である。 すでに「福祉の心を育む地域」であることが子どもからの回答で伺える。
6. 「家庭内でほめられる」86％から、ここでは、地域の中でほめられるかを質問した結果、「ある」33％であった。 これまでも、地域におけるコミュニケーションの希薄化傾向を指摘してきたが、ここでも、大人社会に向けた大きな課題が投げかけられている結果である。
7. 身近な「募金活動」として、「赤い羽根共同募金」について、問い質した結果、「知っている」87％、「知らない」13％の回答結果であった。 家庭や地域社会の中で、身近な「募金活動」を通じて「福祉ってなに？」を学び合う環境を常に提供できるように心がけたい。
8. 福祉など身近な情報を、子どもたちは、どのように入手しているかを問い質したところ、今日、社会では「ネット」情報が先行している中ではあるが、回答結果からは、大人社会における「家庭」「学校」からの入手が多く占めていた。 しかし、子どもたちを取り巻く生活環境にも、「ネット」9％の回答が確実に伺われた。中でも、男性の11％に対して、女性は6％と男性の活用傾向が強い結果であった。
まだまだ、身近な地域コミュニティ組織の中で機能している「回覧版」も、子どもたちから6％の回答が寄せられている。 家族が地域を知る唯一の情報源として、大切に機能を活かしていきたい。
9. 子どもたちにとって「楽しい」と思われる「居場所」を問い質した。 その結果、一番楽しい居場所は「家」42％、次に「学校」20％、「習い事」17％、「その他（お店・友だちの家・祖父母の家・公園・学童保育）」9％、「近所」5％の順であった。福祉を育む「家庭」が一番楽しい居場所であると回答が多かった。 これからも、楽しい家庭環境を築きあげていくことを、大人社会は大いに努力していかなければならない。「学校」も、子どもたちには楽しい居場所として捉えている。 「近所」の回答は、女性の「近所」7％に対して男性の2％を大きく上回り、女性は、この年代から、近所との関係を大切にしていることが伺えた。

５． 福祉との出会（ふれあい交流）に関すること（質問２３の１つの質問）

ここでは、24の質問項目のうち、「福祉との出会い（ふれあい交流）に関すること」に関して、

質問 23 あなたは、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流をしたことがありますか。

の1つの質問の回答結果をまとめた。

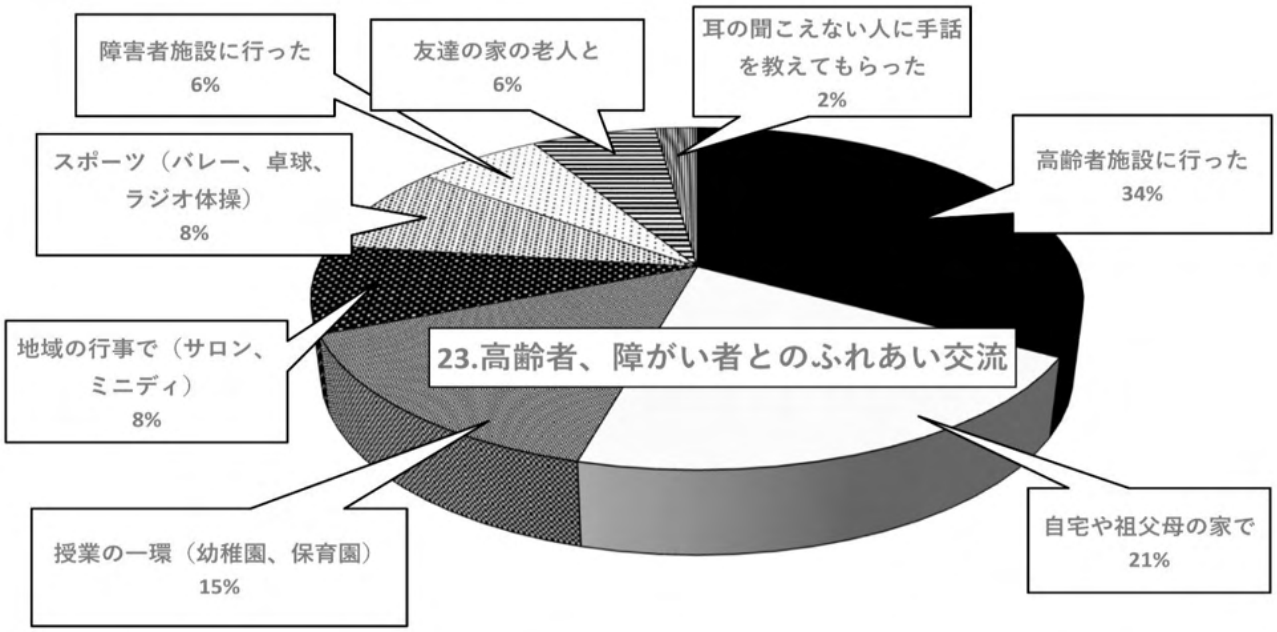
質問 23 あなたは、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流をしたことがありますか。

「福祉ってなに？」の本調査では、日常的に身近な地域社会において、高齢者や障害者等とのふれあい交流等、福祉体験の機会が提供されているかを問い質した。

今日では、学校教育において、より具体的な福祉教育的視点における学びの場は発達段階により取り組まれている。 しかし、厳しいコロナ禍下、また、大人社会の地域コミュニティの意識の希薄化がしている状況の中で、果たして、地域ぐるみの福祉教育の仕組みが保証されているか気になるところである。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
質問２３ あなたは，高齢者や障がいのある人とふれあい交流をしたことがありますか	ある	29	24%	36	31%	65	27%
	ない	91	76%	81	69%	172	73%
	小計	120		117		237	

「ある」と回答のあった27%の回答の主な内容は、「高齢者施設訪問」34%、「自宅や祖父母の家」21%、「幼稚園・保育園訪問」15%、「地域の行事参加（サロン・ミニデイサービス）」8%、「スポーツで交流」8%、「友だちの家の高齢者とのふれあい」「障害者施設訪問」各6%、「障害者理解体験」2%等である。「ない」は73%である。



福祉との出会から“福祉ってなに？”を読み取る

1. 既に、学校教育においては、発達段階に応じた教育カリキュラムの中で確実に取り組まれているが、果たして、私たちの身近な地域社会において、子どもたちは、福祉実体験やふれあい交流をしっかりと提供しているかを問い質した。
2. 「学校」「授業」による福祉実体験やふれあい交流が行われている中で、地域社会の視点で、この項目をまとめると「ある」27%、「ない」73%の回答結果である。
   これからの地域社会においては、「意図的な体験・ふれあい交流」の場の設定を課題にしていくことが求められる。 今回の調査の意図は、「厳しいコロナの状況」と「大人社会のコミュニティへの希薄化」を危惧するこの時期に、子どもたちの思いやりの心をいかに育めるかを課題提起としている。 こうした社会状況におけるこれからの取り組みに、積極的な福祉実体験的環境の確立に努めていきたい。
3. 「福祉実体験・交流がある」と回答のあった「主な内容」は、「高齢者施設訪問」34%、「自宅や祖父母の家」21%、「幼稚園・保育園訪問」15%、「地域の行事参加（サロン・ミニデイサービス）」8%、「スポーツで交流」8%、「友だちの家の高齢者とのふれあい」「障害者施設訪問」各6%、「障害者理解体験」2%等である。
   こうした回答からも、「ミニデイサービス・サロンでの交流」「自宅の祖父母・友だちの高齢者との出会い」「障害を持つ兄弟姉妹と生活していること」「近所の高齢者や一人暮らしの高齢者のご見出しを定期的に手伝う」「地域の高齢者にいつも声をかける」等、身近なご近所や生活圏域における福祉体験の機会は、家庭・家族を含めて、数多く存在していることがわかった。 生活すべてを「福祉化」する中で、子どもたちが生活そのものの中から「福祉」を読み取れる環境を大人社会が構築していけるよう常に努力をしていきたい。

6. これからの地域の支え合いへの提言（質問24の1つの質問）

ここでは、24の質問項目のうち、「これからの地域の支え合いへの提言に関すること」に関して、

質問 24　あなたにとって「安心して、みんなで楽しく暮らせる地域」とは、どんな地域ですか？

の1つの質問について自由な意見をまとめた。

質問 24　あなたにとって「安心して、みんなで楽しく暮らせる地域」とは、どんな地域ですか？

	人	男性	人	女性	人	全体
犯罪がない	29	23%	24	17%	53	20%
交通事故がない	23	18%	20	14%	43	16%
挨拶・声掛け	19	15%	23	16%	42	16%
優しい・思いやり	11	9%	11	8%	22	8%
安全・安心	9	7%	12	8%	21	8%
楽しい	4	3%	5	4%	9	3%
みんなが協力	3	2%	4	3%	7	3%
公園、遊び場がある	5	4%	5	4%	10	4%
笑顔がある	3	2%	6	4%	9	3%
助け合う	4	3%	6	4%	10	4%
仲良く	5	4%	4	3%	9	3%
自然が多い	2	2%	2	1%	4	1%
行事がたくさんある	3	2%	2	1%	5	2%
親切にしてくれる	0	0%	4	3%	4	1%
その他	5	4%	14	10%	19	7%
小計	125		142		267	

244名の子どもから、自由な回答が出た。

厳しいコロナ禍下、子どもたちを取り巻く地域環境を踏まえ、「福祉ってなに？」をもとに、「安心して、みんなで楽しく暮らせる地域」について回答し、大人社会に向けた提言として意見を集約した。

自由回答とした、この項目のまとめ方について、本会では、「定例研究会」及び「調査部会」において、自由な回答をそのまま、取りまとめるかどうかを検討した。その結果、調査の最終的考察をするうえで、回答内容から「キーワード」をもって統計的考察をすることとした。

取りまとめた「キーワード（内容）」は、「犯罪がない」「交通事故がない」「あいさつ・声かけ」「優しさ・思いやり」「安心・安全」「楽しい」「協力」「公園・あそび場」「笑顔」「助け合う」「仲良く」「自然が多い」「行事がたくさん」「親切」「平和」「コロナがない」「ゴミがない」「高齢者や障がい者が暮らせる」「津波が来ない」「平等」「公平」「いじめがない」等22件に及ぶ。

「キーワード」から、全体の意見集約では、回答の多い順にあげると、「犯罪がない」20%、「交通事故がない」「挨拶・声かけ」各16%、「優しさ・思いやり」「安心・安全」各8%、「その他」7%、「公園・あそび場がある」「助け合う」各4%、「楽しい」「みんなが協力」「笑顔がある」「仲良く」各3%、「行事がたくさんある」2%、「自然が多い」「親切にしてくれる」各1%と、人間関係で、ほっとする地域を子どもたちは望んでいるように伺える。

今回の自由回答では、いじめの言葉がなかったことは救われる。 これからも、いじめのない地域でありたい。男女別で、変化があるのは、女性は「挨拶・声かけ」の回答が男性よりも多い。 また、「その他」の回答が女性の方が多く、地域に求める細かな内容を提言している。

学年別（年代別）の一番多い回答の「キーワード」は、4年生では、「挨拶・声かけ」「犯罪がない」「優しい・思いやり」の順、5年生は、「犯罪がない」「交通事故がない」「挨拶・声掛け」、6年生は「犯罪がない」が一番多く、「交通事故がない」「挨拶・声掛け」が同じ回答率となっている。

	人	4年生	人	5年生	人	6年生
犯罪がない	12	17%	25	24%	16	18%
交通事故がない	8	11%	21	20%	14	15%
挨拶・声掛け	16	23%	14	13%	12	13%
優しい・思いやり	10	14%	5	5%	7	8%
安全・安心	7	10%	6	6%	8	9%
助け合う	1	1%	6	6%	3	3%
公園、遊び場がある	2	3%	3	3%	5	5%
仲良く	5	7%	2	2%	2	2%
笑顔がある	3	4%	3	3%	3	3%
楽しい	2	3%	4	4%	3	3%
みんなが協力	0	0%	1	1%	6	7%
行事がたくさんある	2	3%	1	1%	2	2%
自然が多い	1	1%	3	3%	0	0%
平等・公平	0	0%	1	1%	3	3%
ゴミの無い	1	1%	2	2%	1	1%
その他	1	1%	8	8%	6	7%
小計	71		105		91	

これからの地域の支え合いへの提言

厳しいコロナ禍下、子どもたちの「安心して、みんなで楽しく暮らせる地域」の回答から、「キーワード」を総合的に読み取ると、

(1)安全で安心な地域環境が維持されていること

(2)自然に恵まれた身近な生活圏域で、子どもたちが伸び伸びと自由に集まる場所（環境）があること

(3)安心して、ふれあい交流のできる公共施設（公園）が整備されていること

(4)世代間交流が自由に出来きる地域ぐるみの地域行事が継承されていること

(5)お互いに、顔が見える関係が維持されている地域環境があること

(6)優しさ・思いやり・助け合いの心を育み、いつでも挨拶・声かけが出来る語れる地域環境であること

等が、子どもたちが望んでいる自由回答を「キーワード」でまとめた。

第４章　調査のまとめ

１．「与えられる福祉」から「創る福祉」そこには「ニーズ把握」

本会の誕生は、3年間の住民主体による「港地域ささえあい講座」が原点である。

今日の地域社会は、とかく、関係者の動員による講座や研修会が大半を占めている。 こうした状況の中で住民の認識は、誰かが地域を担って当たり前の社会の仕組みを容認しているようにも思える。

厳しい意見が寄せられていた中で、住民が学びたい、また学んでいかなければならない項目を取り上げて、外部講師を招くことなく、地域の豊富な人財や、専門機関への協力要請をもとに3年間、回を重ねるごとに、新たな学習項目を加えて「講座」を継続した経緯がある。 講座を通じて、参加者は改めて「地域を知る」ことに気づき、「地域の課題を発見」の重要性を確認した。 こうした尊い講座をもとに「焼津福祉文化共創研究会」が立ち上がった。 初年度は「地域ぐるみの居場所を検証」、2年目は「居場所の存在する近所のささえあい」について「ご近所福祉その意識と実態把握」につなげた。 3年目は、厳しいコロナ禍下、大人社会のコミュニティ意識の希薄化が浮き彫りになる中で、果たして、子どもたちの思いやりの心は育まれているかを検証するため、子ども対象の調査に初めて取り組んだ。 これからの地域を担う子どもたちから、大人社会への提言として調査活動に取り組むことになった。

２．「地縁」と「志縁」による「協働」

果たして、「地縁団体」だけで地域づくりはが出来るかを問いつつ、「福祉ってなに？　150名の子どもたちに聞きます」の調査を具体化した。 活動を展開していく中で、一体、管内に対象児童（小学4年生から6年生）はどの程度生活しているのか、「150名」は一体どこから引き出したのかと、いろいろと検証しなければならない状況にあった。 一団体の調査活動が地域がスムーズに理解してもらえるだろかと、信頼関係の構築こそ重要であることも浮き彫りになった。 改めて、今回の調査活動の取り組みにあたっては、管内2つの小学校関係者をはじめ、地域福祉の担い手として、日々、管内の福祉問題に取り組まれている「港地区民生委員児童委員協議会」への説明や側面的協力要請等の必要性、管内2つの自治会及び各町内会への説明の場を働きかけること、単位子供会世話人へ個々の説明の機会を持つことなど、計画を進める上で、避けることが出来ない実践的活動を水面下で展開した。 こうした取り組みにより、当初「150名」（対象児童280名のうちの半数）を掲げた、調査活動は、各方面からの全面的な理解のもと、「244名」（対象児童の87％）からの尊い回答をいただくことが出来た。

３．改めて、プロセス重視から「共創による地域づくり」へ

とかく、各種団体・グループの活動は、現状認識を中心に取り組んでいる動きが多いように伺える。

本会は、まだ結成3年目であり、活動の原点は、まだしっかりと認識をして取り組んでいる。「なぜ今、子どもの福祉を問い質すのか」「そこから何を引き出そうとしているのか」を常に明確にしていかなければならない。

本会の活動は、地域性を鑑みながらも、制約されることは多い。　幸い、厳しいコロナ禍下において、活動を中止することなく、尊い「赤い羽根共同募金」の助成事業により、活動を展開できたことを再認識し、本会の活動目的・活動基調を基に展開する中で、「地域づくり」への提言を続けていきたい。

多様な活動が求められている「地縁団体」においては、「地域の課題発見」に取り組むことはなかなか難しいと感じる。 こうした地域社会の中で、地域への課題を発信し、住民相互の理解の中で、地域の現状を把握しながら、一人一人が参画できる地域づくりに向けた活動にしていく努力が必要でもある。

４．子どもの生活状況からの考察

子どもの生活領域から「福祉」を考察すると、

今日、子どもを取り巻く生活基盤の固定化・塾・習い事や、親の就労等により、その環境は大きく変化している。いかに、自発性をもって、子ども同士の関係づくりの基盤をつくれるかを大人社会が側面的支援できる環境が求められている。 家庭環境の中で、明確な役割分担を持ち責任感を促がし、子どもの「手伝い」の選択肢を広げていく大人社会の工夫が期待される。

日常生活の中で、自分自身の悩みを解決出来るように、身近な大人社会が常に歩み寄る配慮が求められる。特に、こうした役割を父親がいかに発揮できるかも問われている。 発達段階に応じた、友だち関係や家族関係のつながりにより、協調性を養い、思いやる心を醸成する中で、自ら問題解決方法が切り拓かれていくように感じる。 いつでも語れる環境を創り出す日頃の努力の中で、コミュニケ―ションのサポートを大人社会が側面的に関わる工夫をしていきたい。 特に、 男性への積極的な関りを心がけていきたい。

５．子どもの家庭・家族との関わりからの考察

「福祉」の基盤は、家庭・家族であることを念頭に、家族とのコミュニケーション、子どもの好意を認め合う、「楽しいと思える家庭・家族環境づくり」が問われている。 大人社会の歩み寄りの工夫と、特に、男性においては、会話の機会が少なく、学年別（年代別）では、年代とともに会話が少ないことや、親子別では、祖父母同居別よりも会話が少ない傾向が伺えた。 家族の温かい恵まれた環境から、子どもは大きく心身共に成長すると感じる。

常に声をかけることで、自発性を促がし、さらに、小さな出来事にも目を配り、家庭生活の中に数多く子どもの行動を「ほめる」ことに置き換える機会を見つける心掛けをしていきたい。 そこに、成功・達成感が発見できるように感じる。日常的に大人が、きめ細かく声をかけていくことが「ほめる」ことにつながっているように受けとめられる。

６．子どもと地域との関わりからの考察

子どもたちの意識の中には、「思いやりの心」を持ち、自ら、地域社会に向けて、コミュニケーションに心掛けていることが伺える。 こうした意識をさらに実践につなげるためには、大人社会は、家庭における心掛けとともに、近所づきあいを通じて、子どもたちに向けた自然な働きかけの努力が求められる。

厳しいコロナ禍により、地域行事はなくなり、または中止が続いている。 管内の子どもたちの地域行事（イベント）への参加は積極的である。 特に、男性より、女性の方が地域参加の傾向は積極的なことが伺える。

厳しい社会環境にあっても、子どもたちは「地域の行事の呼びかけ」に対して、多くは参加を望んでいる。

ことがわかった。 管内は「良い地域」と多くの回答があった。 中でも、「近所の人が優しい」が最も多く27％の回答である。 すでに「福祉の心を育む地域」であることが子どもからの回答で伺える。

「家庭内でほめられる」9割の回答に比べ、地域の中でほめられる回答は3割にとどまっている。

地域におけるコミュニケーションの希薄化傾向が伺えたが、大人社会に向けた大きな課題が投げかけられている結果である。 身近な「募金活動」として、「赤い羽根共同募金」を約9割は知っていると回答している。

家庭や地域社会の中で、身近な「募金活動」を通じて「福祉ってなに？」を学び合う環境を常に提供できるように心がけたい。 福祉など身近な情報を、子どもたちは、どのように入手しているかを問い質したところ、今日、社会では「ネット」情報が先行している中ではあるが、回答結果からは、大人社会における「家庭」「学校」からの入手が多く締めていた。 子どもたちを取り巻く生活環境にも、少しずつ「ネット」社会が浸透しつつある。

身近な地域コミュニティ組織の中で機能している「回覧版」の認識は、子どもたちからの回答に含まれている。
家族が地域を知る唯一の情報源として、大切に機能を活かしていきたい。
子どもたちにとって、福祉を育む「家庭」が一番楽しい居場所と回答し、次に「学校」、「習い事」、「その他（お店・友だちの家・祖父母の家・公園・学童保育）」、「近所」の順であった。
楽しい家庭環境を築きあげていくことを、大人社会は大いに努力していかなければならない。
楽しい居場所の回答「近所」は、女性の「近所」7％に対して男性の2％と大きく、女性は、この年代から、近所との関係を大切にしていることが伺えた。

7．子どもの福祉との出会からの考察

学校教育では、発達段階に応じた教育カリキュラムの中で「福祉関連学習」は確実に取り組まれている。
それでは、果たして、私たちの身近な地域社会において、子どもたちに向けた福祉実体験やふれあい交流がしっかりと提供しているかを問い質していかなければならない。
今回の調査結果からは、子どもたちに向けた福祉実体験やふれあい交流の有無は、「学校」「授業」による福祉実体験やふれあい交流が行われている中で、地域社会の視点で、この項目をまとめると「ある」27％、「ない」73％の回答結果である。
これからの地域社会においては、「意図的な体験・ふれあい交流」の場の設定を課題にしていくことが求められる。 今回の調査の意図は、「厳しいコロナの状況」と「大人社会のコミュニティへの希薄化」を危惧するこの時期に、子どもたちの思いやりの心をいかに育めるかを課題提起としている。 こうした社会状況におけるこれからの取り組みに、積極的な福祉実体験的環境の確立が課題となる。
「福祉実体験・交流がある」と回答のあった「主な内容」は、「高齢者施設訪問」34％、「自宅や祖父母の家」21％、「幼稚園・保育園訪問」15％、「地域の行事参加（サロン・ミニデイサービス）」8％、「スポーツで交流」8％、「友だちの家の高齢者とのふれあい」「障害者施設訪問」各6％、「障害者理解体験」2％等。
私たちの身近な地域社会では「ミニデイサービス・サロンでの交流」「自宅の祖父母・友だちの高齢者との出会い」「障害を持つ兄弟姉妹と生活していること」「近所の高齢者や一人暮らしの高齢者のゴミ出しを定期的に手伝う」「地域の高齢者にいつも声をかける」等、身近なご近所や生活圏域における福祉体験の機会は、家庭・家族を含めて、数多く存在していることがわかった。
生活すべてを「福祉化」する中で、子どもたちが生活そのものの中から「福祉」を読み取れる環境を大人社会が構築していけるよう常に努力をしていきたい。

8．子どもから地域への提言からの考察

厳しいコロナ禍下、子どもたちの「安心して、みんなで楽しく暮らせる地域」の回答から、「キーワード」を総合的に読み取ると、
(1)「安全で安心な地域環境が維持されていること
(2)自然に恵まれた身近な生活圏域で、子どもたちが伸び伸びと自由に集まる場所があること
(3)安心して、ふれあい交流のできる公共施設（公園）が整備されていること
(4)世代間交流が自由に出来きる地域ぐるみの地域行事が継承されていること
(5)お互いに、顔が見える関係が維持されている地域環境があること
(6)優しさ・思いやり・助け合いの心を育み、いつでも挨拶・声かけが出来る語れる地域環境であること
等が、子どもたちが望んでいる自由回答を「キーワード」でまとめた。

第５章　資料編

１．活動経過記録（協働団体：静岡福祉文化を考える会関連活動含）

No.1

月　日	活　　動　　内　　容
3/13	・令和2年度最終定例研究会（第24回・3月）開催 （2020年度総括、V保険加入手続き、2021年度活動計画（調査研究活動）、公開型報告研修会総括等協議）
3/19	・管内関係機関（学校・交番）等に「令和2年度ご近所福祉その意識と実態調査報告書」配布
3/24	・県域研修会において、本会の2年間の活動の概要を説明するとともに、次年度調査活動協力要請
3/25	・焼津市港地域づくり推進会管内自治会に、「調査報告書」配布とともに、次年度の活動協力要請 ・2021年度ボランティア保険加入手続き
3/31	・2020年度活動総括（令和3年度・子ども対象調査研究活動実施具体化）
4/ 1	・静岡新聞社に「令和2年度ご近所福祉その意識と実態調査報告書」送付と今年度調査研究活動提示
4/10	・「2021 年度赤い羽根しあわせ助成事業申請書」作成作業開始 ・「研究会通信第 19 号」発行（関係機関団体等に送信・配布実施）
4/17	・第25回（4月）定例研究会開催 （2020 年度研究会会計報告/2021 年度活動計画協議　　※本会ブログに議事録その都度アップ）
4/21	・港地区民生委員児童委員協議会4月定例会にて「研究会通信第19号」配布
4/24	・「静岡福祉文化を考える会委員会」において、本会との「協働」の取り組み協議
4/25	・2021年度調査研究事業に関する印刷業者との協議 ・港第14自治会会議において「研究会通信第19号」配布
4/26	・調査研究事業に関する情報収集活動
4/29	・「研究会通信第20号」発行（関係機関団体等に送信・配布実施）
5/07	・焼津市社会福祉協議会に「令和3年度赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」申請書提出
5/08	・第26回（5月）定例研究会開催　（「静岡福祉文化を考える会」との協働、調査研究事業の取組み）
5/11	・静岡新聞社記者と「令和2年度ご近所福祉その意識と実態調査報告書」に関する意見交換
5/13	・静岡新聞に「令和2年度ご近所福祉その意識と実態報告書」記事掲載 ・新聞掲載記事に関連する問い合わせあり
5/14	・焼津市社協に活動状況報告と地域、協議体、地区社協、V 連支援に関する資料提供依頼
5/17	・管内小学校に「今年度の子ども対象調査」活動に関する始動助言を求める
5/20	・「あしたの日本を創る協会」発行「まち　むら」（季刊誌）の「地域のチカラ」寄稿に関する問い合わせ実施
5/22	・県コミュニティづくり推進協議会に今年度の活動状況報告 ・静岡福祉文化を考える会主催「第 1 回共創社会実現研究会」「委員会」「第1回公開型研修会」開催
5/27	・「日本福祉文化学会」に「静岡福祉文化を考える会」団体会員手続きを実施
5/28	・石津共栄会に、今年度子ども対象調査実施に関して青少年助成団体等問い合わせ実施
6/03	・今年度の調査研究活動を協議する「第１回IT(調査)部会」開催　※本会ブログに議事録その都度アップ （今年度子ども対象調査実施に関する細部計画、部会の月2回定期開催、調査項目概要等協議） ・静岡新聞社に「今年度子ども対象調査」の取り組みについて情報提供実施
6/06	・「研究会通信第21号」発行（関係機関団体等に送信・配布実施） ・「若者発　ご近所福祉かるた」（静岡福祉文化を考える会との協働事業）協議
6/08	・県内外関係者に「子ども対象調査」に関する取り組みについて、情報収集活動に取り組む
6/12	・第27回（6月）定例研究会開催 ・港地区民生委員児童委員協議会に「今年度子ども対象調査活動」の協力依頼をし了解をいただく
6/17	・焼津市社会福祉協議会より「令和3年度赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」内定の連絡あり
6/19	・港第23自治会町内会長会議において、「今年度子ども対象調査活動」を説明し協力を要請する ・港地域づくり推進会事務局に、改めて今年度の活動状況に関する関連資料を提供
6/24	・焼津市社会福祉協議会より「令和3年度赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」交付決定通知書届く
6/25	・港第14自治会町内会長会議において、「今年度子ども対象調査活動」を説明し協力を要請する
6/26	・「第2回 IT(調査)部会」開催 （県内外の情報収集状況報告、今年度子ども対象調査実施要項、調査票等協議）
6/28	・「調査実施要項」及び「調査票」修正作業実施

月　日	活　　動　　内　　容
6/28	・焼津市社会福祉協議会へ「令和3年度赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」請求書等提出
6/30	・「調査実施要項」及び「調査票」最終作業実施
7/01	・「若者発　ご近所福祉かるた」（静岡福祉文化を考える会との協働事業）増刷納品　配布作業
7/02	・「今年度子ども対象調査活動」に関する、今後の展開について協議
	（部会の定期開催、調査実施要項・調査票確認、データ入力フォーマット作成、調査依頼方法等）
7/03	・管内小学校に、調査実施に関する指導助言を文書にてお願いする
	・静岡福祉文化を考える会主催「第2回共創社会実現研究会」開催
7/07	・管内小学校より、調査実施に関する指導助言の回答をいただく
7/09	・「第3回 IT(調査)部会」開催
	（これまでの経過報告、調査実施要項に基づく展開の確認、調査票配布検討、データ入力等協議）
7/12	・「調査票」の一部予備テスト（10名）実施
7/16	・「調査票」依頼文書作成
	（自治会・町内会・子供会世話人・PTA 及び子供会会長・地区民協・港地域づくり推進会会長・学校長）
7/17	・第28回（7月）定例研究会開催
	（子ども会世話人への調査依頼方法、地縁団体の子どもを取り巻く状況把握の課題、調査票配布等協議）
7/21	・港地区民生委員児童委員協議会定例会で、「子ども対象調査活動」状況資料にて報告
	・「研究会通信第22号」発行　（関係機関団体等に送信・配布実施）
7/25-8/4	・「調査票」の配布作業実施
7/28	・焼津市社会福祉協議会より「令和3年度赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」助成金8割振込あり
7/29	・焼津市社会福祉協議会及び県コミュニティづくり推進協議会に活動状況報告
7/30	・本日より「調査票」回収作業始まる
7/31	・「第4回 IT(調査)部会」開催
	（経過報告、調査票配布及び回収状況、データ入力確認事項等協議）
8/02	・「研究会通信第23号」発行　（関係機関団体等に送信・配布実施）
	・各小学校に、現在までの活動状況報告と子供会組織について問い合わせる
8/03	・自治会及び港地区民協に活動状況報告及び今後の協力を要請する
8/12	・各小学校からの資料を基に「管内子供会状況一覧表」を作成する
	（管内に21の子供会、小学児童は638名　調査対象児童280名）
8/14	・「あしたの日本を創る協会」発行「まち　むら」（季刊誌）の「地域のチカラ」に寄稿
8/18	・「第5回 IT(調査)部会」開催
	（経過報告、対象児童数の把握、子供会組織と自治会、調査票回収及びデータ入力状況等協議）
8/20	・「調査票」の回収に関して、港小学校との連絡調整実施
8/23	・コロナ禍下、小学校の登校日変更に伴う「調査票」回収について、港小学校との連絡調整実施
8/25	・港第14自治会町内会長会議で、調査活動全般経過及び回収状況を報告し、協力を呼びかける
	・焼津市社会福祉協議会及び県コミュニティづくり推進協議会に活動状況報告
8/26	・これまでの調査活動状況を確認し、今後の「調査票データ入力およびクロス集計について協議
8/28	・第29回（8月）定例研究会開催
	（調査票配布及び回収状況確認、地縁団体の認識の格差、150名の目標達成努力と考察子等協議）
8/29	・焼津市社会福祉協議会及び県コミュニティづくり推進協議会に活動状況報告
8/30	・本日までで、150名の回収目標に対して、168名（対象児童の60%）の回答をいただく
	・データ入力作業も、本日までの入力分担は調整済み
8/31	・静岡新聞社焼津支局に調査活動の取り組み状況報告と今後の協力を要請する
	・港第14自治会長に状況報告と今後の協力要請をする（6・7町内会未回収）
9/01	・港第14自治会の6・7町内会長に該当子供会への調査票回収を要請する
	・あしたの日本を創る協会（川越氏）より、「まちむら」9月号寄稿校正依頼あり
	・調査票データ入力担当調整
9/03	・研究会ブログは、「調査関連情報」アップで、アクセス件数増大傾向
9/04	・「研究会通信第24号」発行　関係機関・団体、助成団体等にメール送信実施
	・本日現在、調査票回収　221枚（対象児童280名に対して79%）
	・港・小川各小学校長に「研究会通信第24号」送付とともに、調査活動の進捗状況を報告する

月　日	活　　動　　内　　容
9/05	・港地域づくり推進会事務局（港公民館）へ、「研究会通信第24号」送付し、今年度の事業の進捗状況報告し、今後の協力を求める
9/06	・調査協力礼状文書検討 ・株式会社セーコー社に、「調査報告書」の作成について3回目の確認をする （調査の進捗状況と考察、入稿時期） ・「調査報告書」に関する調整作業 ・本日現在、調査票データ入力　195枚
9/07	・焼津市社会福祉協議会及び県コミュニティづくり推進協議会に、事業経過報告実施 ・静岡新聞社焼津支局記者が調査活動の取り組み状況を確認に来所する
9/11	・第30回（9月）定例研究会/第6回調査部会開催 （報告書作成企画書説明、調査票回収状況確認、クロス集計作業検討） ・静岡福祉文化を考える会主催「第3回共創社会実現研究会」「第2回公開型研修会」開催 ・9/7静岡新聞社取材記事が本日掲載
9/14	・焼津市社会福祉協議会及び静岡県コミュニティづくり推進協議会へ活動状況報告 ・調査票回収244枚確認
9/16	・調査協力関係者への「礼状文書」修正作業
9/17	・調査単純集計作業から、クロス集計作業、及び文章回答項目のグラフ化作業
9/24	・調査協力関係者への「礼状文書」発送作業
9/25	・第 7 回調査部会開催 ・港第 14・23 自治会町内会長,21の子供会世話人へ調査票回収報告とお礼、今後の活動の計画説明と引き続きの協力依頼
9/26	・「若者発　ご近所福祉かるた利用手引き書」執筆作業（～10/10）
9/27	・各会員に「調査考察意見書」配布 （10/5～10/9　に提出または、定例研究会で発表・提出）
9/30	・「調査報告書」執筆作業開始（～11/10）
10/ 4	・2022年度活動財源検討（キリン財団他） ・「研究会通信第25号」編集・発行し、関係方面にメール送信作業（～10/8） ・助成団体等に事業進捗状況経過報告 （焼津市社協、県コミ推協、さわやか福祉財団、あしたの日本を創る協会）
10/ 5	・「まちむら　155号」（あしたの日本を創る協会発行）の本会活動掲載
10/ 7	・かるた印刷業者との協議　　調査報告書印刷業者との協議 ・第8回調査部会開催（データ入力者出席　　考察状況検討　18:00～19:00）
10/ 9	・第31回（10月）定例研究会開催（各会員の考察報告中心　18:00～19:00）
10/10	・「調査報告書作成企画書」に基づく執筆・編集作業開始
10/19	・浜松学院大学　大野木教授より、考える会（県域西部）の調査票116枚届く（総計 461 枚） ・浜松学院大学　大野木教授へ礼状及調査研究活動状況経過報告実施 ・データ入力作業依頼（古屋氏、望月隆仁氏）　　原崎洋一氏に状況報告
10/21	・「若者発ご近所福祉かるた　利用の手引き」編集作業支援
10/22	・第1回焼津市Ｖ連代表者会議開催案内あり（11/20　年会費徴収、Ｖ保険補助、Ｖ連活動助成審議）
10/23	・第9回調査部会開催 ・考える会調査票データ入力作業完了の報告あり（古屋氏、望月隆仁氏） 原崎洋一氏に報告し、集計作業をお願いする
10/25	・「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」最終修正作業完了、シブヤ印刷工芸社と協議の上入稿 ・「調査報告書」執筆作業継続 ・港第14自治会町内会長会議において、「まちむら155号」紹介
10/26	・焼津市社協及び静岡県コミュニティづくり推進協議会に事業経過報告実施（第9回調査部会議事録添付）
10/28	・静岡県コミュニティづくり推進協議会との意見交換
10/30	・静岡県コミュニティづくり推進協議会主催「コミュニティカレッジ」にて、本会の実践展開について事例をもって報告（まちむら155号参照）

月　日	活　　動　　内　　容
11/09	・「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」納品
11/10	・マスコミ対応（「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」発行）
	・「研究会通信第26号」編集・発行し、関係方面にメール送信作業（～10/8）
11/12	・静岡県共同募金会へ事業経過報告　・「調査報告書」執筆作業継続
11/13	・第32回（11月）定例研究会開催
11/16	・静岡新聞社焼津支局長との意見交換（調査の考察作業継続）
11/17	・11月港地区民生委員児童委員協議会において、本会の活動について、3年間「赤い羽根助成事業」による活動が実施できている k 途への感謝と、今年度の「子ども対象調査研究事業」の現在までに経過報告と今後の予定（公開型報告研修会）について案内をする。 今後の協力をお願いする。
11/18	・静岡新聞に、本会協力の静岡福祉文化を考える会「若者発ご近所福祉かるた」増刷及び「かるた利用の手引き」発行の記事掲載
11/20	・日本福祉文化学会 HP に、静岡福祉文化を考える会とのリンクの本会関連内容をアップしていただく。
	・第1回焼津市Ｖ連代表者会議開催 （年会費徴収、Ｖ保険100円×10名分補助有、各団体に一律活動助成7，000円有）
11/27	・「調査報告書」執筆作業継続
	・静岡福祉文化を考える会主催「第 20 回静岡県福祉文化研究セミナー」開催 （本会との協働事業説明）
	・静岡福祉文化を考える会主催「第4回共創社会実現研究会」開催（最終回）
11/30	・第 10 回調査部会開催　（経過報告、研究会報告書作成状況、考える会調査集計表に関すること）
12/01	・「研究会通信第27号」編集・発行し、関係方面にメール送信作業
12/11	・第33回（12 月）定例研究会開催
12/18	・第 11 回調査部会開催　（経過報告、研究会報告書作成状況、公開型報告研修会具体化）
12/25	・「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査報告書」に関して、印刷業者との協議及び入稿作業実施
1/ 8	・第 12 回調査部会開催　（経過報告、公開型報告研修会具体化②）
	・印刷業者との経過について協議
1/10	・「研究会通信第28号」編集・発行し、関係方面にメール送信作業
	・「公開型報告研修会」（子ども対象調査報告会）開催に関する広報啓発作業実施
	・関係機関・団体等への事業経過報告
1/15	・第34回（1月）定例研究会開催
	・「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査報告書」納品
	・第2回焼津市Ｖ連代表者会議開催
2/ 5	・第 13 回調査部会開催　（経過報告、公開型報告研修会具体化③）
2/ 9	・公開型報告研修会に関するマスコミ対応
2/10	・「研究会通信第29号」編集・発行し、関係方面にメール送信作業
2/12	・関係団体等との連絡調整
2/20	・第35回（2月）定例研究会開催（公開型報告研修会当日の展開確認）
	・令和3年度公開型報告研修会開催（子ども対象調査報告）
2/22	・「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査報告書」を関係団体等に配布
2/26	・静岡福祉文化を考える会主催「委員会」開催
	・静岡福祉文化を考える会主催「第3回公開型研修会」開催（県域の子ども対象調査結果報告）
2/27	・日本福祉文化学会 HP に情報提供
2/28	・赤い羽根みんなのしあわせ助成事業実施報告書提出
	・関係団体等に、今年度の活動に関する報告と協力のお礼実施
3/ 5	・第3回焼津市Ｖ連代表者会議開催
3/10	・2022年度活動計画検討作業
3/12	・第 14 回調査部会開催　（経過報告、調査事業及び公開型報告研修会総括）
3/25	・「研究会通信第30号」編集・発行し、関係方面にメール送信作業
3/26	・第36回（3月）定例研究会開催（2021年度事業総括、2022年度事業協議）

２．焼津福祉文化共創研究会活動１年目から２年目の歩み

２０１９年度　焼津福祉文化共創研究会　事業報告（活動１年目）

活動テーマ：港地域のご近所福祉を切り拓く「集まる居場所」で地域ぐるみのささえあいの検証

１．事業実施期間　４月１日　～　３月３１日

２．活動範囲　焼津市港地域づくり推進会管内（港第１４・２３自治会　約５，０００世帯の中学校校区）

３．会議等

活動をより円滑に取り組むために、関係団体等との打ち合わせ会や、会員による定例研究会（毎月原則第２土曜日）開催　　本会今年度事業展開のため適宜「調査部会」開催

会議等は、港第１４自治会管内　デイサービス百の木石津内研究会事務局内で開催

４．関係者研修会の開催　　１０月２８日に、港第 14 自治会第１２町内会「北川原公会堂」において、県コミュニティづくり推進協議会専門員及び事務局を迎えて、本会の事業の取り組みを説明するとともに、これからの福祉コミュニティの構築について、自治会・町内会関係者、民生委員、市社協、会員１６名が出席して意見交換をした。

５．冊子「港地域の　“ご近所”を切り拓く　ホッとする、つながる・ささえあう“あつまる居場所”をめざして―港地域の団体・グループ紹介集―」の作成

「港地域づくり推進会」（港中学校区：第 14・２３自治会・約５，０００世帯）管内における、今日まで、意図的に組織化され、取り組まれている「居場所的機能」をはじめ、既存の活動団体・グループ、サークル活動により、地域住民同士がふれあい交流し、「地域の拠り処」の機能を有している現状を、本会会員が、８月１日より１２月２８日の約５か月間において調査し、地域住民に、「真の居場所」を問題提起し、これからの地域づくりに活かすための情報提供をした。（A４版　56P　２００部作成）

６．「検証報告書」の作成

「港地域の団体・グループ紹介集」で把握した「シート」をもとに、さらに、参加状況地域住民世代別、領域別、社会参加状況等を分析・考察し、その結果を明らかにし、管内のそれぞれの地域で取り組まれている多種多様な居場所を「港地域ぐるみの居場所」としてさらに「見える化」する作業に発展させて、これからの地域づくりについて提言し、継続的な活動につなげる目的で作成した。

（A４版　84P　２００部作成）

７．広く、本事業を関係機関・団体及び地域住民に広報啓発するため、「焼津福祉文化共創研究会通信」を計画的に発行し配布した。

今年度は、９月創刊号から、原則月１回発行（１００部）で第６号まで発行した。

特に、「協働」を掲げる本会では、メール配信で、関係機関団体に配信した。

８．今年度の事業に関わった関係人員は、延べ　２６０人。

内　訳：	(1)研究会会員	１４名×８回	１１２名
	(2)団体・グループ協力者	２名×５５団体	１１０名
	(3)調査に関する検討会	２名×５回＋10 名	２０名
	(4)関係者研修会		１８名

＊その他、「研究会通信」による関係機関・団体多数

９．経過記録

04/01・第1回（4月）定例研究会開催　地域の課題整理作業と結成1年目の活動計画協議
04/20・焼津市Ｖ連絡協議会加盟・総会出席（6名）
05/11・第2回（5月）定例研究会開催　今年度の具体的な活動内容と財源確保協議
　「居場所」議論の中で、管内における既存の集まる団体・グループの把握活動に取り組む
05/23・「管内福祉施設連絡会」（管内13の介護事業所）発会式出席
05/28・静岡県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」申請書提出
06/08・第3回（6月）定例研究会開催　本会年間計画に基づき、居場所調査活動の具体的協議
06/21・千葉県浦安市民生委員児童委員協議会来焼「ささえあい講座のプロセス」紹介
06/27・静岡県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」助成決定
07/03・「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」申請書提出
07/13・第4回（7月）定例研究会開催　本事業の展開状況確認、「調査票」の回収問題議論
07/22・静岡県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」交付式出席
　・「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」助成決定
08/10・第５回（8 月）定例研究会開催　本事業開始と展開確認　関係地縁団体等への協力要請開始
09/14・第６回（9 月）定例研究会開催　引き続き本事業の展開状況確認、「調査票」の回収問題議論
　・本会活動の啓発の必要性から「焼津福祉文化共創研究会通信創刊号」発行（毎月発行　100 部）
10/19・第７回（10 月）定例研究会開催　引き続き本事業の展開状況確認、調査票の回収問題議論
　・「焼津福祉文化共創研究会通信第2号」発行　調査活動の動き掲載
10/20・「焼津市ふれあい広場」係当番として参加
10/27・（株）セイコー社と協議(以降４回協議)（本事業の取り組みと成果物の作成に関する意見交換）
10/28・福祉コミュニティ関係者研修会開催（自治会・町内会、民生委員、社協関係者等18名出席）
11/16・第８回（11 月）定例研究会開催　本事業の完成時期と今後の活用方法協議
　・「焼津福祉文化共創研究会通信第3号」発行（福祉コミュニティ関係者研修会関連記事掲載）
11/29・本事業調査関係に関する打ち合わせ会開催（以降4回開催）調査シートと入力、組み立て
12/01・第 30 回日本福祉文化学会全国大会東海大会（名古屋市中京大）にて実践発表
12/07・本事業調査関係に関する第2回打ち合わせ会開催　調査票の入力作業開始と検討事項協議
12/10・「焼津福祉文化共創研究会通信第4号」発行　福祉文化実践活動の現状と協働活動掲載
12/15・第9回（12 月）定例研究会開催　調査の回収・校正作業のメド協議
12/22・港第 14 自治会第 12 町内会「歳末助け合い・ささえあい・ふれあい行事」支援
01/11・第 10 回（1 月）定例研究会開催　ページ仕立て最終確認
　・「焼津福祉文化共創研究会通信第５号」発行（子供を育む地域行事支援）
01/18・本事業調査関係に関する第5回打ち合わせ会開催　最終校正・発注作業実施（～1/28）
02/03・「紹介集」納品　協力いただいた関係機関・団体・グループに「報告集」送付
02/08・第 11 回（2 月）定例研究会開催　本事業総括①と今後の継続的冊子活用・報告研修会協議
02/10・焼津市社会福祉協議会に「事業実施報告書」提出　地縁団体等への協力お礼と連携要請
02/18・「焼津福祉文化共創研究会通信第６号」発行（「紹介集」完成と今後の活用方法掲載）
03/10・「港地域の集まる居場所検証報告書」納品、関係機関・団体等への配布作業実施
03/23・静岡県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」1年次報告書提出
03/21・第 12 回（3 月）定例研究会開催　本事業総括②と次年度活動計画検討
　　●焼津市Ｖ連絡協議会・代表者会議出席（奇数月）

１０．活動の成果と問題点（課題提起）

（１）平成２８年度から平成３０年度まで３年間にわたり、いかに、「共助・近助の地域を再構築することができるか」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」（港第１４・２３自治会による組織体・港地域づくり推進会主催）を開講．この講座運営に関わった実行委員有志と地域活動に関心を持つ市民(14 名)が、これまでの講座の成果をさらに地域づくりに活かそうと、2019 年４月に「志縁団体」として、「焼津福祉文化共創研究会」(福文共)が誕生した。初年度にして、静岡県コミュニティづくり推進協議会及び焼津市共同募金会助の助成事業により、これまで、市民主体で取り組んだ尊い実践講座の３年間の取り組みの総括から、(1)語れる地域環境の醸成（世代を超えた地域総合型学習形態のしくみづくり）　(2)「地縁組織」と「志縁組織」の融合による地域づくりの取組み　(3)「専門性」と「市民性」の融合（管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と地域介護力アップ）(4)当事者組織化の支援（5)具体的な地域の生活支援策の把握　(6)管内のささえあいの仕組みづくり(7)総合的地域支援組織の再構築（トータルコーデイネート機能）(8)地域を「見える化」する広報啓発　(9)制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成　(10)ご近所福祉の復活　等「10 の地域課題」を浮き彫りにし、この地域課題から「地域ぐるみの居場所」解決に向けて、『港地域のご近所福祉を切り拓く　集まる居場所で地域ぐるみのささえあい検証事業』の取組むことが出来た。

こうした、地域を診断する事業を展開し、改めて、地域住民の現状を把握することが出来た。

（２）今年度取りまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会あるごとに関連福祉情報を本会から提供し、こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、地域で顔の見える “近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」として働きかけ、本会の活動基調に基づき、広く住民に「集まる居場所」の意義を広め［地域総合型研修の場］を具体化し、次年度の活動につなげる課題がある。

（３）管内における地域住民が集まり、ふれあい交流している「地域の拠り処」をまとめ、地域全体で共有し、地域の絆を深めることの認識を高める必要性を痛感する。

（４）地域住民一人一人が地域参加の機会をもつことにより、社会の問題となってきた中高年の閉じこもり社会を防ぎ、男性の地域参加を促し、積極的に仲間づくりをし、「地域ぐるみの居場所」を啓発する必要性がある。

（５）これまで、長い地域づくりの歩みの中で、世代や領域を超えて、様々な［地域の拠り処」があることを地域全体で再認識する呼び掛けの必要性を感じる。

（６）「集める居場所」から「集まる居場所」（楽しむ・交流する・学び合う）について、地域住民への意識を高めることを積極的に働きかけなければならない。

（７）「公助の社会」から「共助の社会」について問題提起をさらに呼び掛ける啓発活動に取り組む。

（８）本事業を通じて、関係団体やグループ等との連携（ネットワーク化）と共に「共創社会実現」をさらに試みる課題がある。

（９）「地域を家庭化する」試みを呼びかけ、住民相互のつながりを呼びかける。

(10) 身近な地域住民に対して、地域活動に関する関連福祉情報の提供の機会を引き続き努力したい。

(11) 多様な福祉ニーズが浮上している今日にあって、ささやかながら、本会のような「志縁組織」をもって課題解決につなげられるように、「地縁組織」関係者に積極的に働きかけたい。

２０２０年度　焼津福祉文化共創研究会　事業報告（活動２年目）

活動テーマ：港地域の福祉課題を「見える化」するご近所福祉の意識と実態を検証

1. 事業実施期間　4月1日　～　3月31日
2. 活動範囲　焼津市港地域づくり推進会管内（港第14・23自治会　約5，000世帯の中学校校区）
3. 会議・研修会等

(1)定例研究会　　6回（9月以降2月まで（毎月第2土曜日　19:00～21:30））

(2)自治会関係者会議　4回（9月より12月まで・毎月25日　19:00～20:00）

(3)町内会関係者会議　5回（9月から1月まで・毎月10日）

(4)調査研究部会　5回（7月から1月まで、7/21　8/8　8/30　10/3　11/11 ）

(5)公開型研修会　2回（11/15　2/28　13:00-16:00）

＊会議・部会は、港第14自治会管内　第12町内会　北川原公会堂中心に開催

＊研修会は、焼津市石津コミュニティ防災センターで開催

4.「一人・家族・地域がつながり合う、これからの“福祉力”を探る　―ご近所福祉その意識と実態調査」実施

(1)調査の目的

「焼津福祉文化共創研究会」は、2016～2018 年度の 3 年間にわたり、住民主体の「港地域ささえあい講座」（約 5,000 世帯の中学校区・公民館を拠点とする、2つの自治会組織で構成する地域）に取り組み、この講座に関わった実行委員有志と市民により、2019 年度に「生活圏域の福祉問題に取り組む志縁団体」として発足した。 初年度（2019年度）は「居場所検証」として、既存の市民主体の団体・グループの現状把握に取り組み「港地域の居場所検証報告書」として取りまとめた。

今回の調査研究活動は、厳しいコロナ禍を契機に、これまでのご近所の支え合いから、これからの支え合いについて、「静岡福祉文化を考える会」との協働活動により、全県域と焼津市港地域の地域性をもとに住民の意識と実態を把握し、これからの「港地域のご近所福祉」のあり方について、調査個票の作成検討をはじめ、調査協力依頼、回収、データ入力・考察等のプロセスを住民主体で取り組み、これからの港地域の課題を整理し、その改善・解決に向けた提言を取りまとめることを目的に実施する。

(2)実施主体　焼津福祉文化共創研究会

(3)協働団体　静岡福祉文化を考える会

(4)対　　象　焼津市港地域づくり推進会管内の20代以上の方々を対象に、年代・世代・領域等を考慮して、約 150 名程度の回収を目標に実施したが、345名の回答を得た。

(5)調査項目

①基本属性(1)

②地域との関わりの意識(2.3.4.5.6.7)

③地域との関わりの実態(8.9.10.11.12.13.14)

④地域参加の動向(15.16.17.18.19.20.21.22)

⑤地域環境(23.24.25.26.27.28)

⑥提　言（自由意見）(29)

(6)調査展開

①調査項目・調査票検討　6月～9月　定例会・委員会及び調査研究会等で検討

②調査票まとめ　9月 30 日

③調査依頼（実施期間）　10 月　1日～11 月 10 日　　※調査時点　10 月 1 日

④回収期間　10 月　1日～11 月 18 日

⑤入力期間　10 月　1 日～11 月 18 日

⑥分析・考察　　11 月 18 日～12 月 23 日　定例会・委員会及び調査研究部会で実施

⑦公表・報告　　令和 3 年　2 月

①本会研修会及び関係機関・団体等の各種研修会で経過報告実施

②「焼津福祉文化共創研究会通信」で随時経過・概要を紹介

5. 調査報告書「ご近所福祉その意識と実態調査報告書」の作成（A4版　80P　200部作成）

⑴ページ仕立て

・はじめに　人・家族・地域がつながり合う、これからの“港地域の福祉力”を探る　1P

・目　次　1P

・内　容

第1章　調査の概要　5P

1. 調査実施意図　2. 調査方法と調査日　3. 調査票の形式及び調査項目

4. 調査対象と調査票の発送　5. 調査実施機関　6. 調査協力　7. 回収状況

第2章　サンプル構成／基本属性　4P

1. 性別　2. 世代別　3. 結婚歴　4. 職業別　5. 居住形態別　6. 居住歴別

7. 地域別　8. 地域形態別　9. 家族構成別

第3章　調査結果　47P

1. 基本属性

2. 地域との関わりの意識

3. 地域との関わりの実態

4. 地域参加の動向

5. 地域環境

6. 提言（自由意見）

第4章　調査のまとめ　5P

第5章　資料編

＊事業経過記録　＊2020 年度活動計画　＊調査実施要項　＊調査票

＊研究会通信12回　＊研究会要覧（会員名簿）　＊研究会規約　17P

⑵配布計画

①配布領域区分

a.会員	13部
b.市社会福祉協議会	5部
c.調査協力者・研修会参加者	60部
d.マスコミ	15部
e.地区民協	24部
f.港地域づくり推進会（14・23自治会）	45部
g.港管内福祉施設連絡会	13部
h.予備	24部
計	200部

6. 広く、本事業を関係機関・団体及び地域住民に広報啓発するため、「焼津福祉文化共創研究会通信」を4月から3月まで、毎月計画的に発行し配布（配信）した。

特に、「協働」を掲げる本会は、下記の関係機関団体に配布・配信に努めた。

(1)日本福祉文化学会　　・HP 関連の日常的連携維持

(2)静岡福祉文化を考える会 ・「ご近所福祉調査」関連協働作業継続 ・HP 連携維持

(3)港第 14 自治会第 12 町内会関連 ・定例居場所開所・歳末助け合い助成事業協力

(4)静岡県コミュニティづくり推進協議会関連 ・助成事業日常的連携維持（通信送信）

(5)焼津市 V 連絡協議会関連（通信配布）

(6)自治会及び地区民生委員児童委員協議会関連（通信配布）

(7)管内福祉施設連絡会関連（通信送信）

(8)港公民館（港地域づくり推進会）関連（通信送信）

(9)焼津市社会福祉協議会関連(通信送信)

(10)焼津市行政関連（地域包括ケア推進課・地域福祉課）（通信送信）

7.「静岡福祉文化を考える会」との連携のもと、「日本福祉文化学会 HP」と「焼津福祉文化共創研究会ブログ」のリンクが、7月の日本福祉文化学会理事会で承認され、その後 8/3 以降、本会の活動状況を広く啓発できるようになった。

8. 今年度の事業に関わった関係人員は、延べ　704　人

内訳:　1. 調査協力者　345名

2. 自治会関係者会議　4回×17名　68名

3. 町内会関係者会議　5回×11名　55名

4. 民生委員児童委員協議会関係者会議　3回×24名　72名

5. 公開型研修会参加者（第1回 26 名　第2回 30 名）　56名

6. 調査研究部会　5 回×6名　30名

◇定例研究会参加者（通算　12回）　延べ 110名

9. 経過記録

月 日	活　動　内　容
03/28	・第 12 回（3 月）定例研究会開催（本事業総括と令和2年度活動計画協議）
04/08	・「研究会通信第7号」編集作業・発行　関係機関・団体等に PC メール送信・配布
04/11	・4月（第 13 回）定例研究会開催 「2020年度共同募金助成事業」申請協議
04/13	・「令和元年度検証報告研修会」（5/31　石津コミセン）の延期決定に伴う、関係機関・団体（港地域づくり推進会・港公民館、焼津市社協、県コミュニティ推進協議会、港地区民協、福祉施設連絡会、各自治会等）への連絡実施
04/29	・「研究会通信第8号」編集作業・発行　関係機関・団体等に PC メール送信実施
05/05	・焼津市共同募金地域福祉促進事業助成事業申請書作成作業（～5/16）
05/16	・5月（第 14 回）定例研究会開催
05/25	・静岡市清水区由比　現地訪問研修　（地区社協による地域のささえあい活動）で本会活動紹介
05/26	・焼津市の「協議体」の取り組みについて市行政に問い合わせをする
06/01	・HP に関する連絡調整（日本財団　CANPAN 更新作業に関して） ・「焼津市共同募金地域福祉促進事業助成事業申請書」市社協に提出
06/06	・焼津市の「協議体」の取り組みについて社協担当者に問い合わせをする ・令和2年度主な活動「ご近所福祉その意識と実態調査」実施要項・調査票検討作業
06/11	・「研究会通信第9号」編集作業・発行　関係機関・団体等に PC メール送信実施
06/13	・6月（第 15 回）定例研究会開催

	・「ブログ」立ち上げに関する連絡調整
06/15	・「令和元年度検証報告書」を55協力団体・グループに配布作業実施
	・「研究会通信第10号」編集作業・発行　関係機関・団体等に PC メール送信実施
06/16	・港地域の特性資料収集作業（港公民館、港第23自治会等）
	・「令和2年度2年次コミュニティ活動集団助成交付手続き書類」作成提出
	・6月定例地区民協会議に「研究会通信第9号」配布依頼
	・静岡福祉文化を考える会「委員会」にて、今年度調査研究事業を「研究会」と協働で取り
06/17	組むことを確認する
06/21	・現在までの「日本財団 canpan」登録作業に関する連絡調整
	・静岡県コミュニティづくり推進協議会より、活動集団に対する「アンケート」回答依頼有
06/27	折り返し「回答」する。（コロナに関する活動状況）
06/29	・助成事業関連団体（静岡県コミ推協、焼津市社協）へ活動状況報告
	・「研究会要覧」作成
06/30	・「ご近所福祉その意識と実態調査」項目検討作業(～7/10)
	・「日本財団 canpan」登録作業継続　本日までに　評価★★★★
	・第1回 IT 部会開催
07/01	・「日本財団 canpan」の登録データ入力継続作業実施の結果、評価★★★★★
07/08	引き続き、データ入力作業をし、「第三者認証マーク取得」をめざす
07/10	・「ご近所福祉その意識と実態調査」に関する実施要項及び調査票内容検討継続作業
	・7月（第 16 回）定例研究会開催
	・「焼津福祉文化共創研究会」「日本財団 CANPAN」データ入力に関する連絡調整
07/11	・「研究会通信第11号」編集作業・発行　関係機関・団体等に PC メール送信実施
	・6月定例地区民協会議に「研究会通信第10号」配布依頼
07/16	・今年度初めての「焼津市 V 連代表者会議（7月）」開催　出席
07/15	「本会要覧」「研究会通信第9・10号」を23団体と社協に配布
07/18	・「ご近所福祉その意識と実態調査」調査個票組み立て作業(～8/8)
	・焼津市共同募金助成事業決定通知書届く
	・焼津市共同募金助成事業決定に伴う「概算請求書」等、提出すべき書類を焼津市社会福
	祉協議会に提出
	・日本福祉文化学会理事会（オンライン会議）にて、「日本財団　CANPAN　登録」に伴う「静
	岡福祉文化を考える会」「研究会」と「学会 HP」リンクについて承認を得る。
	また、本会及び考える会との「協働」による「ご近所福祉その意識と実態調査」の実施を
07/19	紹介し、「地方発　福祉文化の創造」についてその意義を強調する。
	・「ご近所福祉その意識と実態調査」項目修正検討継続作業実施（～8/7）
	・助成事業関連団体（静岡県コミ推協、焼津市社協）へ活動状況報告
	・「令和2年度2年次コミュニティ活動集団助成金」振込あり
07/20	・「みずほ教育福祉財団」助成事業（「静岡福祉文化を考える会申請」決定による「プロジェ
07/21	クター」器材納品及び説明会開催
07/31	・第2回 IT 部会開催
08/01	・「研究会通信第11号」発行、関係機関・団体等に配布・メール送信作業実施
	・8 月（第 17 回）定例研究会開催

	・助成事業関連団体（静岡県コミ推協、焼津市社協）へ活動状況報告
08/06	・「市V連意見書」を市社協を通じて提出
08/08	・「ご近所福祉その意識と実態調査」調査個票組み立て作業(～9/12)
08/09	・第3回 IT 部会開催
08/13	・「日本福祉文化学会」「静岡福祉文化を考える会」「焼津福祉文化共創研究会」との HP,ブログアップ作業（～9/12）　　「gmail」アドレス作成作業実施
08/14	・学会広報担当者に「研究会第 11号」送信し、学会HPにアップ依頼
	・8 月定例地区民協会議で「研究会通信第11号」配布依頼
08/15 08/16	・8月港第14自治会町内会長会議にて，調査協力（9月25日説明時間申し出）、「みなといしづ自治会広報誌」は「ささえあい講座ブログ」に立ち上げている（確認）、5/31 開催予定の「検証報告研修会」が延期となっているが、11/15 開催予定（協力依頼）
08/25	・調査票再組み換え作業実施（～8/29）
	・焼津市V連より連絡事項あり、 9/19V連代表者会議中止
	・学会・稲田氏より、「研究会通信第12号」学会HPに立ち上げた旨連絡有
	・調査票最終仕上げ作業
08/26	・「ご近所福祉その意識と実態調査報告書」作成企画書作成
08/27	・市役所より「全市の協議体の状況」資料入手
08/28	・大日三協株式会社との連絡調整(報告書印刷製本費見積依頼)
08/29 08/30	・大日三協株式会社に「報告書作成企画書」を送付し、正式に「印刷製本費見積書」提出依頼
08/31	・大日三協株式会社担当者との協議(見積書、作業工程表について協議
09/01	・第4回IT部会開催
	・現在までの「日本財団 canpan」登録作業に関する連絡調整
09/12	・助成関連団体へ状況報告（静岡県コミュニティづくり協議会・焼津市社会福祉協議会）
09/13	・「研究会通信第12号」編集発行、関係機関・団体等に配布・メール送信作業実施
09/15	・9 月（第 18 回）定例研究会開催　継続的に日々、各種ベータ入力作業実施
09/16	・「ご近所福祉その意識と実態調査」調査個票及び要項印刷・配布作業
	・港地域づくり推進会宛に「ご近所福祉その意識と実態調査」協力依頼文書提出
09/23	・港地区定例民協会議において「ご近所福祉その意識と実態調査」協力依頼と「検証報告研修会」を 11 月 15 日開催予定を説明する
09/25	・県コミュニティづくり推進協議会に出向き、事業の経過報告をする 市社協にも、同様の報告をメール送信する
	・大日三協株式会より、「調査報告書」の見積書受け取る　併せて、作業工程表受け取る
	・本日より、調査個票回収開始
10/03 10/10	・9月港第 14 自治会町内会長会議に出席し、「調査協力呼び掛け及び検証報告研修会参加呼び掛け」をする
10/13	・第5回 IT 部会開催
10/17	・「研究会通信第13号」編集発行、関係機関・団体等に配布・メール送信作業実施
10/21	・助成事業関係団体に現状報告実施
	・10 月（第19回）定例研究会開催
	・10月港地区民協定例会にて、調査経過報告及び検証報告研修会の案内をする

10/23	・助成団体（焼津市社協・県コミ推協）及び、港地域づくり推進会へ、調査活動経過報告及び検証報告研修会を連絡する
	・研究会会員へ、調査活動・検証報告研修会の経過報告実施
11/07 11/09	・助成団体（焼津市社協・県コミ推協）及び、港地域づくり推進会へ、「検証報告研修会」開催の案内を送付する　市Ｖ連内各団体に 11/15 研修会チラシ配布
11/11	・県コミュニティづくり推進協議会へ、現在までの活動の経過報告をする
	・焼津市社協に出向き、現在までの活動の経過報告をする
11/15	・「11/15研修会」に関するマスコミ対応(15 社)
11/16	・第 6 回 IT 部会開催　（これまでの経過報告と報告書作成に向けた展開確認）
11/18	・「第1回公開型研修会（2019・活動検証報告）」開催
11/21	・研究会通信第14号編集作業・発行　関係機関・団体等にメール送信実施
	・11月港地区民協定例会において、「調査協力お礼」「11/15研修会お礼」をする
11/25	・11 月（第20回）定例研究会開催（データ考察①）
	・「研究会通信第14号」編集発行、関係機関・団体等に配布・メール送信作業実施
	・港第14自治会町内会長会議で「調査協力お礼：」「11/15 研修会お礼」を申し上げる
	・港第14自治会第12町内会行事協力要請あり
	・焼津市社会福祉協議会に、「令和2年度助成事業」実施状況及び、「第1回検証報告研修会」終了報告
12/07	・静岡県コミュニティづくり推進協議会、焼津市社会福祉協議会に、調査最終回収枚数345枚単純・クロス集計データ資料送付
12/12	・「調査設問 29」（自由回答）のまとめ方の確認
12/19	・静岡県コミュニティづくり推進協議会に現在までの事業報告実施
12/22	・12 月（第21回）定例研究会開催(データ考察②)
	・港第14自治会第12町内会事業協力
12/23	・「研究会通信第15号」編集発行、関係機関・団体等に配布・メール送信作業実施
12/25	・「報告書」執筆作業(～1/25)
12/26	・焼津市社会福祉協議会及び静岡県コミュニティづくり推進協議会に、活動状況報告
12/27	・港第14自治会町内会長会議にて「通信15号」配布
1/ 2	・港第14自治会第12町内会事業協力（折り紙教室）
1/ 4	・港第14自治会第12町内会事業協力（折り紙教室）
1/ 5	・第2回公開型研修会開催要項検討作業
1/ 8	・焼津福祉文化共創研究会通信第16号編集作業実施
1/12	・みずほ教育福祉財団寄贈の「プロジェクター・スクリーン」使用状況（活動）報告書提出
	・大日三協株式会社（印刷業者）との協議
1/16 1/20	・焼津市社会福祉協議会及び静岡県コミュニティづくり推進協議会との連絡調整（助成事業報告書提出に向けて）
2/ 4	・1月（第22回）定例研究会開催
2/ 6	・大日三協株式会社（印刷業者）に入稿
2/14	・「調査報告書」納品
	・助成事業実施報告書提出
2/28	・「研究会通信第17号」編集発行、関係機関・団体等に配布・メール送信作業実施

	・2月（第23回）定例研究会開催 ・「調査報告研修会」開催 ●焼津市Ｖ連絡協議会・代表者会議出席（奇数月）

10．活動の成果

(1) 本事業は、住民主体に、「調査個票の作成」「調査の展開」「データ入力」「単純・クロス集計分析」等、会員相互の連携で、手づくりの調査活動に取り組むことが出来た。

年間計画に基づき、「定例研究会」他に、関連団体との連携、本会内に「調査研究部会」を新たに設置し、事業の円滑化に務めた結果、地域住民に対して「IT」（HP，ブログ）による地域問題を発信する広報啓発領域が拡大され、身近な地域問題への関心が高まった。

(2) 約5，000世帯をもって組織化された「港地域づくり推進会」（第 14・23自治会）管内における「ご近所福祉その意識と実態調査」事業に取り組んだ。

コロナ禍の厳しい状況下であったが、会員の創意工夫により、360枚の調査票を配布し、150枚の回収目標の事業計画であったが、地域住民の関心度は高く、回収率95．8％、345枚の調査票を回収出来た。年代別、性別、領域別、居住歴別、家族構成別等幅広い基本属性をもとに、管内住民の意識と実態を把握することが出来た。 主には、男性47．8％、女性51．3％と男性からの積極的な回答が得られた。ほぼ、既婚者、持家の住民からの回答であった。 年代別では、60代～70代は26％前後、20代～30代は7％前後、40代～50代は13％前後とやや関心が薄い状況が明らかになった。

(3) 関係機関・団体等との協働（専門性と市民性の融合）により、調査結果を、「ご近所福祉その意識と実態調査報告書」（A4版 88P 第1章から第5章の組み立て）として取りまとめ、広く調査に協力いただいた関係団体・関係者に呼びかけ、「集まる学習の場」をもとに、「公開型報告研修会」を開催し、調査活動の意義とプロセスを通じて、調査結果から浮き彫りになった課題を共有し、改善解決に向けた呼び掛けをすることが出来た。

(4) 報告書配布計画に基づき効果的配布をし、港地域づくりの基盤体制維持に向けた課題提起をする地域環境が整った。 特に、自治会、民生委員児童委員協議会、町内会等に、今回の結果考察を情報提供することにより、今後において「地縁団体」と「志縁団体」との「協働」がさらに一歩改善の兆しが見えてきた。

(5) 浮き彫りになった「地域課題」を広く地域住民に情報提供する機会が出来た。さらに、具体的な活動展開をするために、次年度の活動計画策定に反映する糸口が出来た。

11．今後に向けた課題

(1) 「地域を知る」「地域活動の見える化・わかる化」を本事業で、広く地域団体・関係者に働きかけることは出来た。しかしながら、地縁団体の現状で、任期1年または2年で退任する当て職的関係者に、いかに、継続的につなげることが出来るか、現状ではなかなか難しい側面がある。 引き続き、「地縁団体」との協働連携を維持し、「本会」（「志縁」）の活動の取り組みを積極的に啓発し、地域活動に、ともに参画する地域づくりに向けて、地域市民に積極的に働き掛けなければならない。

(2)本事業により、明らかになった「課題」を、日常生活の中で、改善・解決するための情報提供の仕組みをさらに検討していかなければならない。そのために、「本会ブログ」と管内自治会HPとをリンクし、若い世代層に、いつでも情報を発信できるように努力したい。

＊すでに、作業は進んでいる。 焼津市社会福祉協議会HPに、各種団体とリンクする仕組みを明確にすることを望む。

(3)関係機関・団体（行政等）が、「地域」をどこまで、把握し理解しているのかである。 こうした活動結果を積極的に提供することが必要と感じる。 また、常に情報を共有できることを期待したい。

３．令和３年度焼津福祉文化共創研究会活動計画

活動テーマ：港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る

平成28年度から平成30年度まで3年間にわたり、いかに、「共助・近助の地域を再構築することができるか」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」（港第14・23自治会による組織体・港地域づくり推進会主催）を開講。

市民主体で取り組んだ、尊い実践講座の3年間の取り組みの総括から、次の「10 の地域課題」を浮き彫りにした。

(1)語れる地域環境の醸成（世代を超えた地域総合型学習形態の仕組みづくり）
(2)「地縁組織」（お互い様）と「志縁組織」（使命感）の融合による地域づくりの取組み
(3)「専門性」と「市民性」の融合（管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と地域介護力アップ）
(4)当事者組織化の支援
(5)具体的な地域の生活支援策の把握
(6)管内のささえあいの仕組みづくり
(7)総合的地域支援組織の再構築（トータルコーデイネート機能）
(8)地域を「見える化」する広報啓発
(9)制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
(10)ご近所福祉の復活

その後、この講座運営に関わった実行委員有志と地域活動に関心を持つ市民(当時 14 名)が、これまでの講座の成果をさらに地域づくりに活かそうと、「志縁団体」として、2019 年4月「焼津福祉文化共創研究会」(福文共)が誕生した。

こうした、課題改善・解決に向けて、市民有志で結成した本会の活動が3年目に入る。

これまでの2年間は、尊い「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」と「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」により、意義ある活動を展開し、地域住民に検証してきた活動を報告し、問題提起に努めてきた。

◇1年目（2019 年度）

＊活動テーマ「港地域の“ご近所”を切り拓く　集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する」
約5，000世帯をもって組織化されている「港地域づくり推進会」（第 14・23自治会）管内において、今日まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り処としている「居場所的機能」を持つ55の既存の各種団体・グループ）を把握し、「集める居場所から集まる居場所」を課題提起出来た。

◇2年目（2020 年度）

＊活動テーマ「港地域のご近所福祉を切り拓くパート2　―協働による地域課題解決を探るー」
1年目に取りまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会あるごとに情報提供し、改めて、こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組み、地域で顔の見える “近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きかけた。

◇3年目（2021 年度）は、活動テーマを「港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る」として、この2年間にわたり考察・実践してきた活動のプロセスから、改めて、港地域の現状を踏まえて、地域を家庭化し、世代を超えて、誰もが地域づくりに関われるご近所を“地域の居場所”としていく活動に取り組む。

1. 活動の着眼項目

(1)世代を超えて「地域ぐるみの居場所」を創る「地域総合型学習」の場
(2)「ご近所」を地域の話題とし、地域社会の課題提起ができる場
(3)「専門性と市民性の融合」を基に、「協働」による課題解決改善に取り組む場
(4)地域住民の「ご近所福祉その意識と実態調査結果」から浮き彫りになった課題を議論し合う場
(5)地域のささえあいの仕組みづくりを「理論と実践」活動のプロセスで取り組む場

◇引き続き、2020.1.11 の議論から、3年目の活動努力点として ①活動財源確保　②アドバイス・コーデイネート資質の向上　③対等な議論（地縁と志縁、会員を広める、公開型議論）④世代を超えた地域学習の提供　④継続的実践活動の展開

2. 役員会の開催

(1)実務型役員会運営に徹し、一丸となって，活動の進捗状況管理と検証に努める。
(2)定例研究会開催日の前に、「活動計画」に基づく運営について、協議の場を持つ。
(3)様々な地域実践活動から「地方発福祉文化の創造」を問題提起する。

3. 定例研究会の開催

(1)原則、毎月第2土曜日、19:00～21:00を定例開催日とする。（別添活動計画表参照）
(2)各種活動の状況に応じて、臨時研究会をもって、円滑な運営に努める。

4. 事業関連部会設置と開催

(1) 本会活動を円滑に展開するために、事業別部会を設置して運営することとする。

(2) これまでの2年間の活動の取り組みから、「調査部会」「広報部会」「研修部会」を必要に応じて設置する。

(3)各部会で議論した内容は、活動の成果につなげるように、その都度「定例研究会」で、さらに議論を深める。

5. 主な活動の取り組み

(1) 調査研究事業

①「地域ぐるみの居場所」検証事業（継続事業）
＊2019 年度実施の「検証事業」の継続的取り組みとして、55の団体・グループをさらに掘り下げ、項目白紙欄の補充等を含めて、管内における「地域ぐるみの居場所」の把握に取り組む。
＊「紹介集」の更なる充実と共に、管内の「居場所の意義」を推進する努力をする。
②「ご近所福祉その意識と実態調査」事業（継続事業）
＊2020 年度実施した調査結果及び考察を、静岡福祉文化を考える会」との協働により、さらに議論を深めて、地域の実情把握による課題解決に向けた取組みをする。
③「“福祉”ってなに？150 名の子どもたちに聞きました。 調査」事業
＊大人社会の地域コミュニティへの希薄化の今日、港地域づくり推進会管内の小学生5・6年生対象に、生活全般、家庭・家族、地域社会、地域参加等の意識と実態調査を実施し、これからの地域づくりへの提言の一助とする目的で実施する。

(2)研修事業
①公開型研修会として「ご近所福祉検証学習会」の開催（継続事業）
＊2020 年度に取り組んだ「ご近所福祉その意識と実態調査事業」について、地域住民とともに、「若

者発　ご近所福祉かるた」を教材にして、公開型研修会として開催する
＊助成事業支援団体（県コミ推協・焼津市社協等）、県及び市行政関係方面に案内をする。
＊本会会員の提案をもとに、内容の工夫と具体的な役割分担をもって実現につなげる。
（進行・プログラム参加・運営演出・資料作成・広報啓発）
②地域をつなぐ協働研修会
＊管内福祉施設連絡会との「地域支援」「生活支援」に関する協働研修会の開催
③現場実践研修会
＊「若者発　ご近所福祉かるた」の活用による「近助」のあり方を学び合う機会を持つ。
＊地域コミュニティ組織または、福祉事業所・施設等における「近助」のあり方を議論しながら、地域ぐるみのささえあいと地域参加を議論し合う
④調査研究考察報告研修会
＊調査研究事業として取り組んだ結果を報告し、啓発研修の機会とする

(3)広報事業
①日本福祉文化学会 HP を主体に、静岡福祉文化を考える会ブログとの連動による本会ブロブにより、広く、活動を通じた課題提起を発信していく。
②「焼津福祉文化共創研究会通信」の発行
③積極的に、マスコミへの情報提供に努める。

(4)協働事業
①「管内福祉施設連絡会」との協働事業
②「静岡福祉文化を考える会」との協働事業
③「焼津市Ｖ連」との協働事業
④　管内各種団体・グループとの協働事業

6．関係・団体との連携

(1)静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会への情報提供・連携

(2)「地方発　福祉文化の創造」の実践を基に、「静岡福祉文化を考える会」及び「日本福祉文化学会」との情報の共有と活動の協働
＊各種事業の取り組みについての情報提供
＊各種事業の実践活動の共有

(3)関連機関・団体、大学・専門学校への情報提供

(4)焼津市ボランティア連絡協議会との連携
＊定期総会出席
＊定期Ｖ連代表者会議出席と情報提供（通信配布）

(5)ふじのくに未来財団への情報提供

(6)静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供

(7)管内福祉施設連絡会との連携と情報の共有
＊通信配布

(8)港地域づくり推進会（事務局：港公民館）への情報提供
＊通信送信　　＊各種活動状況

(9)その他、必要に応じて、関係機関・団体に情報提供

４．2021 年度　焼津福祉文化共創研究会　調査研究事業
「福祉ってなに？ 150 名の子どもたちに聞きます」調査実施要項

1.　調査の目的

本会は、2019 年度結成以来、地域の福祉課題をテーマに、大人社会を対象に調査研究活動に取り組んできた。2020 年度取り組んだ「ご近所福祉その意識と実態調査」結果から、地域住民相互のつながりやささえあいが弱くなり、地域コミュニティへの関りについて、その意識と実態が希薄化の傾向にあることが浮き彫りになった。

こうした、地域環境で生活している、次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」が、確実に醸成されているか、大いに気になるところである。 加えて、厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうか、問い質す時期を迎えている。

　このたびの調査では、身近な生活圏域において、地域の大人社会と向き合う子どもたちを対象にご近所や同居する高齢者（認知症高齢者含）、障がい児者等への思いやり等について、「基本属性」「生活状況（子ども自身）」「家庭・家族のこと」「地域社会・地域活動のこと」「体験事例」「地域への期待」の各項目の意識と実態を把握し、子どもたちを取り巻く地域環境の課題を改善・解決し「共生社会」をめざして、地域社会に提言することを目的に取り組む。

2.　実施主体　焼津福祉文化共創研究会

3.　協　力　静岡福祉文化を考える会　　共創社会実現研究会

4.　調査対象　「港地域づくり推進会」管内（港第14・23自治会）の小学校4年生・5年生・6年生
　　約 150 名の調査票回収を目標に実施.

5.　調査依頼／配布方法

(1)　会員（現在 12 名）　各5枚　(60 枚)
(2)　地域実践者等に依頼　(20 枚)
(3)　子供会組織、学童保育関係に依頼　(50 枚)
(4)　自治会組織関係者等に依頼　(20 枚)　計 150 枚

6.　調査項目

(1)　基本属性
(2)　生活状況（子ども自身）
(3)　家庭・家族のこと
(4)　地域社会・地域活動のこと
(5)　こんな福祉との出会いがありました
(6)　地域への期待（自由な意見提言）

7.　調査展開

(1)　調査項目・調査票検討……本会委員会及び「IT（調査）部会」等中心に4月～6月検討
(2)　調査票完成……07 月 17 日
(3)　調査依頼（実施期間）……07 月 25 日～08 月 31 日（夏休み期間中の調査実施）
(4)　回収・入力期間……07 月 30 日～10 月 30 日
(5)　分析・考察……10 月 30 日～12 月 15 日
(6)　公表・報告……2022 年 2 月予定
　①公開型報告研修会，関係機関・団体等の各種研修会で実施.
　②本会通信で経過報告及び考察概要紹介.

8.　問い合わせ・取りまとめ先

〒425-0041　焼津市石津 751-1 焼津福祉文化共創研究会　代表　平　田　　厚
Tel.& Fax: 054-624-1924　携帯：090-4861-4547　E-mail: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

●この事業は、「赤い羽根共同募金」の助成を受けて実施します。

5. 調査票

「福祉ってなに？　150名の子どもたちに聞きます」アンケートにご協力下さい。

このアンケートは，「港地域づくり推進会」（港第14自治会・港第23自治会）の小学校4年生から6年生のみなさんに協力をお願いしています。

みなさんの毎日の生活，家庭における生活，そして，地域（自治会・町内会・子ども会等）における生活について，「２４の質問」に答えて下さい。

みなさんからの大切な意見は、みなさんが安心して楽しく地域で暮らし合えるように，これからの地域づくりに参考にしていきます。　　よろしくお願いします。

◇このアンケートは、「赤い羽根共同募金」の助成を受けて実施します。◇

2021年7月25日　焼津福祉文化共創研究会

質問１　あなたのことについて，答えて下さい。

問01.　性別　①男性　②女性

問02.　学年　①4年生　②5年生　③6年生

問03.　あなたの住まいは，どの地域ですか。　①港第14自治会　②港第２３自治会

問04.　あなたの家族について答えて下さい。

①おじいちゃんやおばあちゃんといっしょに暮らしている　②親と子どもだけで暮らしている

③その他（　　）

問05.　あなたは，あなたをふくめて，兄弟姉妹は何人ですか。

①1人　②2人　③3人　④4人以上

質問２　あなたは，友だちと遊びますか。

①よく遊ぶ　②ときどき遊ぶ　③あまり遊ばない　④全く遊ばない

質問３　あなたは，お手伝いをしますか。

①よくする（どんなお手伝いですか。➡　　）

②ときどきする（どんなお手伝いですか。➡　　）

③あまりしない　④しない

質問４　あなたは，自分のことでこまったときは主に，だれに話したり相談したりしますか。
主なものを３つまで答えて下さい。

①友だち　②父親　③母親　④学校の先生　⑤おじいちゃん・おばあちゃん　⑥親せきの人

⑦兄弟姉妹　⑧その他の人（　　）　⑨誰にも相談しない　⑩こまっていない

質問５　あなたは，友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。

①話を聞く　②別の友だちや大人などに相談する　③何もしない　④その他（　　）　⑤わからない

質問６　あなたは家族と話をしますか。

①よく話をする　②たまに話をする　③ほとんど話をしない

質問７　質問６.で「①よく話をする」「②たまに話をする」に○をつけた人に聞きます。
どんな時に話をしますか。主なものを３つまで答えて下さい。

①土日や祝日等学校が休みの時　②食事をしている時　③一緒にお風呂に入っている時

④みんなでテレビを見ている時　⑤家族で外出・旅行をしている時　⑥その他（　　）

質問８　質問６．で「③話をしない」に○をつけた人に聞きます。主なものを３つまで答えて下さい。

①学校の勉強が忙しく家族と話す時間が無い　②話したくない　③何を話していいのかわからない

④習いごとが忙しく話す時間が無い　⑤その他（　　）

質問９　あなたは，家族の人にほめられますか。

①よくほめられる　（どんなときですか。➡　　）

②ときどきほめられる　（どんなときですか。➡　　）

③あまりほめられたことが無い

質問 10　あなたは，毎日家族と楽しく過ごしていますか。

①楽しく過ごしている　②まあまあ楽しく過ごしている　③どちらかといえば楽しく過ごしていない
④楽しくない　⑤どちらともいえない

質問 11　あなたは，地域（自治会，町内会，子ども会等）でどのようなことに心掛けていますか。主なものを３つまで答えて下さい。

①電車やバスの中で席を譲る　②点字ブロックの上に自転車を置かない　③体の不自由な人に道路を譲る
④困っている人に声をかける　⑤自分から進んであいさつをする　⑥わからない　⑦特に何もしない
⑧その他（　　）

質問 12　あなたは，すすんで他人のためになにかをしてあげたいと思いますか。

①そう思う　②そう思わない　③どちらともいえない　④わからない

質問 13 あなたは，近所の人と話をしますか。

①よく話す　②あいさつをするくらい　③話をしない　④誰が住んでいるのかわからない

質問 14　あなたは，地域（自治会，町内会，子ども会等）が行う行事に参加していますか。

①よく参加している　②時々参加している　③あまり参加していない　④まったく参加していない

質問 15　あなたが住んでいる地域は，良い地域だと思いますか。

①とても良い　②良い　③あまり良くない　④よくない　⑤わからない

質問 16　質問 15.で「①とても良い」「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いですか。主なものを３つまで答えて下さい。

①自然が多い　②近所の人が優しい　③犯罪が少ない　④交通事故が少ない　⑤静かな場所
⑥地域の行事が多い　⑦交通の便が良い　⑧遊ぶ場所がある　⑨その他（　　）

質問 17　質問 15.で「あまり良くない」「良くない」と答えた人は，どんな点が良くないですか。主なものを３つまで答えて下さい。

①自然が少ない　②近所の人から怒られる　③近所の人と交流がない　④犯罪が多い　⑤交通事故が多い
⑥騒音がうるさい　⑦交通の便が悪い　⑧地域の行事が少ない　⑨遊ぶ場所がない　⑩その他（　　）

質問 18　あなたは，地域（自治会・町内会・子ども会等）の行事参加の呼び掛けがあれば参加しますか。

①ぜひ，参加したい　②出来る範囲で参加したい　③参加したくない　④わからない

質問 19　あなたは，地域の人にほめられたことがありますか。

①ある（どのようなことですか➡　　）
②ない

質問 20　あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。

①知っている　②知らない

質問 21　あなたは、身近な地域の情報はどこから得ていますか。主なものを３つまで答えて下さい。

①家族　②友だち　③ラジオ・テレビ　④ネット　⑤新聞　⑥市広報誌　⑦回覧板　⑧学校
⑨公民館だより　⑩スーパー・商店等の掲示板　⑪自治会・町内会発行広報誌　⑫口コミ　⑬チラシ
⑭その他(　　)　⑮特にない

質問 22　あなたは、毎日の生活で、楽しい場所はどこですか。主なものを３つまで答えて下さい。

①家　②学校　③習いごと　④近所　⑤その他（　　）　⑥ない

質問 23　あなたは，高齢者や障がいのある人とふれあい交流をしたことがありますか。

①ある（どんな交流ですか➡　　）
②ない

質問 24　あなたにとって、「安心して、みんなで楽しく暮らせる地域」とは、どんな地域ですか。あなたの意見を紹介して下さい。

＊ご協力ありがとうございました＊

6. 焼津福祉文化共創研究会通信第 19 号～第 28 号

福文共通信 No.１９　　２０２１年４月１７日発行

Life・Culture & Welfare　地域から発信　福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信

焼津福祉文化共創研究会事務局
〒425-0044 焼津市石津向町 15-17
百の木デイサービス石津内
Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731
編集委員　望月隆仁　望月旬子　河野惠介
原崎幸子　平田厚

2020 年度を検証し、住民主体の地域づくりをめざし、3 年目の活動にトライ！
次世代を担う“子どもたち”に「福祉」を問いかけ、ホッとする地域を探る

「志縁団体」として、常に、「港地域の地域課題解決」に向けて取り組んできた本会は、通算 24 回目の定例研究会を３月 13 日(土)開催し、結成２年目を総括した。主な内容は、下記の通りである。

(1)厳しいコロナ禍下、計画に基づく活動が留まることなく、毎月定例研究会を開催し議論を深めた。
関連資料は、定例会５日前までに各会員のもとに配布し、事前に目を通し、本質的協議につなげた。

(2)主要活動である調査研究事業「ご近所福祉その意識と実態調査」は、当初 150 名の調査票回収目標に計画通り確実に取組み 345 名の回収成果となった。　本事業は「静岡福祉文化を考える会」(県域市民活動集団)と「協働」して、港地域と県域の意識と実態を比較する考察が出来た。

(3) コロナ禍下「三密防止徹底」のもと、当初の予定を一部変更しながらも、「公開型報告研修会」を計画通り第１回２６名、第２回３７名の参加をもって開催し、活動を地域住民と共有し合った。

(4)「研究会通信」を毎月発行し、関係機関・団体等にメール送信、または紙媒体にて配布し、本会の活動基調である「協働」の取り組みに努めた。
特に、「静岡福祉文化を考える会」との協働による活動を通じて、広報啓発活動においては、幅広い領域に情報を発信することができた。

(5)活動２年目の本会の活動の大きな特色として、日本福祉文化学会 HP とのリンクが実現し、本会ブログの日常的更新努力により、アップ件数は顕著で最大の成果である。

以上のような、自己評価を確認した中で、３年目に向けた、いくつかの課題も浮上している。

(1)３年目の活動に入る「研究会」をいかにして、市民権が得られるようにしていくか。
＊本会の活動基調に「専門性と市民性の融合」があげられている。
市民主体の活動に、いかに「専門性」を活かしていけるかである。「専門性」が先行してしまうと、地域と遊離してしまう。「わかる化」「見える化」に務めながら、「総合的な調整機能」が発揮できるように「社会資源の発掘」や「公助の動き」を十分把握できる努力が求められる。

(2)「研究会」を存続していく工夫が求められる。
＊ともに地域の課題を学び合う環境の維持が必要である。決して「集める研究会」ではなく「集まる研究会」として、常に地域に発信できる努力が必要である。　あくまでも、市民主体の視点を見失わない。

(3)地域をいかにして「福祉化」していくか。
「難しい・関係がない福祉」から、日常の生活圏域における「わかる・創る福祉」を発信していく努力。
この２年間、本会は、尊い「‘赤い羽根’みんなのしあわせ助成事業」(2021 年度より名称変更) により、①地域のささえあい事業　②地域福祉に関する交流事業等を目的に、結成初年度「地域ぐるみの居場所」を活動テーマに、管内の状況把握をし、地域に課題提起をした。

今年度は、「居場所」を取り巻くご近所の支え合いの意識と実態把握を「ご近所福祉の検証事業」として、特には、「意識と実態調査活動」に取り組み、問題を明らかにした。
これまで、大人社会に向けた地域の課題を検証してきた。
３年目の 2021 年度は、次世代を担う「子どもたち」を対象に、「子どもたちの福祉観」を把握しながら、大人社会への提言として、今後の地域づくりに活かしていきたい。

シリーズ❸　「ご近所福祉その意識と実態調査」から何が見えたか

設問６ 地域活動参加協力の呼びかけへの参加について

＊全体的では、「積極的に参加をする」15%、「呼びかけがあれば参加する」６８%と、「参加」の回答が８３%と高い回答結果である。消極的回答は１５%。この回答結果から、地域活動へのより具体的な参加の呼びかけの工夫が求められる。

★県域の回答結果　➪この設問は、平成２３年度「参加の傾向」83%、平成２８年度は７５%であったが、今回は８７%と高い回答結果である。厳しい社会の動きに対する前向きな回答と受け止められる。

設問７ 呼びかけに参加と答えた　主な活動内容

＊回答の多い順にまとめると、①「健康づくりや生きがいづくり」30% ②「自治会・町内会等運営の参画」２７% ③[防災・防犯等生活安全に関する活動」２６% ④「高齢者や障害者への支援」２５%　⑤「子育てや子どもの見守り」２４% ⑥「スポーツ・文化・レクリエーション等の活動」20%　⑦「介護者や介護を必要とする方への支援」11%「世代を超えた交流活動」12% ⑧⑨「青少年健全育成活動」２%
年代別では、３０代から５０代は、「子育てや子どもの見守り」が多い６０代から７０代は、「健康づくりや生きがいづくり」が多い回答傾向にある。

★県域の回答結果　➪①「自治会・町内会等運営の参画」２９%がトップ、 ②「高齢者や障害者への支援」２９% ③「健康づくりや生きがいづくり」２７% ④防災・防犯等生活安全に関する活動」２７% ⑤「子育てや子どもの見守り」２１% ⑥「スポーツ・文化・レクリエーション等の活動」１８% ⑦「世代を超えた交流活動」１２% ⑧「介護者や介護を必要とする方への支援」１１% ⑨「青少年健全育成活動」２%順。

「焼津福祉文化共創研究会」への「ブログ」アクセス急増

＊７月の日本福祉文化学会理事会で承認（8/3）以降のリンク状況は、毎日、データをアップしているため、研究会ブログアクセスは１日平均９８件と著しい増加傾向にある。　　４月　１３日現在

	港地域ささえあい講座	静岡福祉文化を考える会	焼津福祉文化共創研究会
8月 3日（開始当時）	11，214	885	3，543
4月 1日（総日数253日）	27，930	21，880	28，288
	１日約６５件	１日約８３件	１日約９８件

事務局日誌拝見（3 月 10 日～4 月 17 日）

3/13	・３月定例研究会開催 （２０２０年度総括、Ｖ保険加入手続準備、２０２１年度活動計画・静岡福祉文化を考える会との協働確認等）
3/15	・2021 年度会費納入確認
3/16	・焼津市社会福祉協議会及び県コミ推協に、助成事業に関する経過報告実施
3/17	・３月港地区民生委員・児童委員協議会にて、調査協力のお礼を申し上げる ・菊川市において、本会の活動について概要報告をする
3/19	・管内関係機関（学校・交番・小川第 11 自治会）等に「調査報告書」を届ける
3/2	・２０２１年度Ｖ保険加入手続き完了　・県域関係者研修会で本会の活動の概要を説明する
3/25	・港地域づくり推進会管内自治会に、「調査報告書」を配布 ・港第 14 自治会広報誌「みなといしづ 21 号」に、第２回公開型研修会（助成事業）掲載
3/31	・２０２０年度書類関係取りまとめ・「2021 年度赤い羽根しあわせ助成事業申請書」作成
4/17	・４月定例研究会開催(2020 年度研究会会計報告)　・「研究会通信第 19 号」発行

Life・Culture & Welfare　地域から発信　福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信

焼津福祉文化共創研究会事務局
〒425-0044 焼津市石津向町 15-17
百の木デイサービス石津内
Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731
編集委員　望月隆仁　望月旬子　河野惠介
原崎幸子　平田厚

３年目の活動スタート　厳しいコロナ禍の中、福祉文化共創社会を探る
“語れる環境”こそ問題解決の第一歩をもとに、４月定例研究会で議論深める

本会の活動が３年目に入った。幅広い領域から参集した本会は、まさしく異業種交流、地域を形にしようと語り合うサロンでもある。県内で活動しているベテランの地域実践者は語る。「地域活動は、楽しくなければやってられないよ」と。なるほど、苦痛で、重荷で、負担がかかる活動は誰もが望まない。「楽しいを創る」ことをモットーに、細く長く、そして、点から線、線から面へと広がることを期待したい。

● 2021 年度　第１回定例研究会に１１名が出席　新たな地域課題を確認し合う ●

2021 年度 ４月（第 25 回）定例研究会が、大雨の中、４月 17 日（土）北川原公会堂で開催した。

この日は、本会の活動に関心を持たれた市民も加わり、いつものことながら、本会の活動を熱く語り合う賑やかなひと時となった。事前の協議資料の配布で、全会員の参画意識を高め、厳しいコロナ禍下であった昨年度を振り返りながら、尊い「焼津市共同募金」の助成事業により、「ご近所福祉その意識と実態調査の実施と報告書の作成」「調査報告公開研修会を２回開催」できたことを確認した。また、２年目の「県コミュティづくり推進協議会・コミュニテイ活動集団事業」では、本会の「志縁団体」としての評価をいただくことが出来た。

この日の主な協議事項は、１か月間の経過報告をもとに (1)本会活動の見える化努力により、本会ブログのアクセス件数の増加を確認。更に、地域課題提起に努める (2)引き続き、活動財源確保の努力　(3)２年前に「焼津市Ｖ連絡協議会」に加盟した経緯を再確認し、「Ｖ連の果たす役割」は何かを議論 (4) ２０２１年度の活動は「静岡福祉文化を考える会」活動との「協働」により、「ご近所福祉かるたの実践」と「調査研究活動」に取り組む (5)子どもを対象とした調査活動に取組み、大人社会の意識改革への課題提起。

●子ども対象の調査活動から、地域づくりへの提言にいかにつなぐか●

３年目の活動では、調査研究事業として、子ども対象に、「１５０名の子どもたちに聞きました。　福祉ってなに？」(仮称)に取り組む。地域における在宅高齢者・障害児者とのふれあいと理解、認知症の高齢者との関わり等を調査項目とし、大人社会にこれからの地域づくりの課題提起することを目的とする。第１回定例研究会では、「大人の意見が入らない調査にする、親子で福祉を共有する機会をもつ調査票の配布及び実施方法の検討」「コロナ禍下、これまでの調査活動のノウハウを活かした取組み」「生活圏域の取組み」「学校・コミュニテイ組織領域の理解と協力を求める努力」「活動の財源確保努力」「静岡福祉文化を考える会との連携」等の意見が出た。

●「静岡福祉文化を考える会」との「協働」の取り組みの具体化●

平成２７年度に、「静岡福祉文化を考える会」が静岡県共同募金会の助成事業により制作した「若者発　ご近所福祉かるた」(１００セットを県内各団体・地域・施設に配布)は、５年を経過し、改めて「共助」が求められる地域社会の課題解決として、2021 年度静岡県共同募金会の助成事業として「かるたの活用拡大と住民福祉教育開拓事業」が決定した。主な内容は「共創社会実現研究会の設置と議論」「かるたの増刷」「かるた利用の手引き書作成」を挙げている。「かるた」には,「.おすそわけ」「子どもの居場所 」「世話やきさん復活」「さりげない声かけ」「ボランティアチャンス」等、４０のキーワードが含まれている。

シリーズ❹　「ご近所福祉その意識と実態調査」から何が見えたか

設問８　近所づきあいの満足度について

＊全体的では、男女別の回答結果も同様、「満足している　」１９％、「まあまあ満足している」６７％と、「満足傾向」は８６％。年代別に、満足度の高い回答順にあげると、４０代９１％、７０代９０％、５０代・６０代８６％、２０代８０％、３０代７８％で、８０代は７４％であった。居住年数別に見ると、居住年数が長いほど、満足度は高い回答傾向にあった。

★県域の回答結果　➪「満足している」１７％、「まあまあ満足している」６９％と、「満足傾向」８６％は、ほぼ、港地域の回答結果と同じである。

設問９　ご近所に親しくしていて行き来する家の状況について

＊全体的では、「何軒かある」50％、「1軒くらいはある　」26％、「まったくない」17％、「多くある」7％。

★県域の回答結果　➪「まったくない」平成23年度17％、平成28年度30％、令和2年度16％

「多くある」平成23年度8％、平成28年度5％、令和2年度7％

「何軒かある　」平成23年度51％、平成28年度35％、令和2年度52％

今回の回答傾向は、県域の回答結果と同じ傾向であった。

設問 10 ご近所の人との付き合いの状況について

＊全体的では、回答の多い順に「差しさわりのないことなら話せる人がいる」５６％、「道で会えば、挨拶する程度の人はいる」２６％、「個人的なことを相談し合える人がいる」１４％、「　ほとんど近所づきあいをしない」５％であった。　男女別の結果では、「個人的なことを相談し合える人がいる」女性２０％に対して、男性６％と低い回答結果である。　年代別では、２０代・３０代の回答の多いのは「道で会えば、挨拶する程度の人はいる」が５０から６０％。４０代以上は「「差しさわりのないことなら話せる人がいる」５０％から７０％と高い。

★県域の回答結果　➪回答の多い順に「差しさわりのないことなら話せる人がいる」５７％、「道で会えば、挨拶する程度の人はいる」２１％、「個人的なことを相談し合える人がいる」１７％、「　ほとんど近所づきあいをしない」４％で、ほぼ、港地域の回答結果とほぼ同じであった。

「焼津福祉文化共創研究会」及び「静岡福祉文化を考える会」の日頃の活動状況を「ＱＲコード」で確認して下さい！

昨年８月、「日本福祉文化学会」のＨＰとのリンクにより、「焼津福祉文化共創研究会」及び「静岡福祉文化を考える会」のブログへの、日頃の活動状況を日々、きめ細かくアップ作業に努めている。　「地方発　福祉文化の創造」をさらに発信。

研究会ＱＲコード　　考える会ＱＲコード

事務局日誌拝見（４月１７日～５月０８日）

4/17	・４月定例研究会開催　（2020 年度研究会会計報告　・２０２１年度活動計画確認）
4/21	・港地区民生委員児童委員協議会４月定例会にて「研究会通信第１９号」配布
4/23	・４月定例研究会議事録作成
4/24	・「静岡福祉文化を考える会委員会」において、本会との「協働」の取り組み協議
4/25	・港第１４自治会会議において「研究会通信第１９号」配布
4/26	・２０２１年度赤い羽根しあわせ助成事業申請書類作成作業
4/27	・「研究会通信第２０号」編集作業開始
4/29	・「研究会通信第２０号」発行　・調査研究事業に関する情報収集活動
5/03	・５月定例研究会関連資料各会員に配布
5/08	・５月定例研究会開催　（「静岡福祉文化を考える会」との協働、調査研究事業の取組み）

福文共通信 No.２１　　２０２１年６月１２日発行

Life・Culture & Welfare　地域から発信　福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信

焼津福祉文化共創研究会事務局
〒425-0044 焼津市石津向町 15-17
百の木デイサービス石津内
Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731
編集委員　望月隆仁　望月旬子　河野惠介
原崎幸子　平田厚

子どもたちから大人社会へのメッセージはなにか
「150 名の子どもたちに聞きました “福祉” ってなに？」(仮称) 調査実施に向けて
「ＩＴ部会」を立ち上げ、具体的な協議に入る

2020 年度、大人社会を対象に取り組んだ調査結果から、地域住民相互のつながりやささえあいが薄れ、地域コミュニティへの意識と実態が希薄化の傾向にあることが考察できた。

こうした、地域環境で生活している、次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」は、果たして、確実に醸成されているか、大いに気になるところである。

加えて、厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうか問い質す時期を迎えている。　本会の 2021 年度の調査活動は、子どもたちを対象に「150 名の子どもたちに聞きました。“福祉” ってなに？」(仮称)の調査に取り組むことにした。　調査内容は、身近な生活圏域において、子どもたちは、地域の大人社会と向き合う中で、「生活状況（子ども自身)」「家庭・家族のこと」「地域社会・地域活動のこと」（身近な在宅高齢者、障害児者への思いやり等）「体験事例」「地域への期待」の各項目（約２５問程度）の意識と実態を把握して、地域社会（大人社会）への提言として取り組むこととしている。

４・５月の定例研究会では、2021 年度に取り組む活動内容を協議する中で、調査活動の基本な方向性を確認した。　去る６月３日（木)、調査活動の本格的な取組みに移行するため、「IT 部会」を立ち上げた。
「IT 部会」の設置は、(1)協働による調査活動の取り組みの維持　(2)調査活動の「見える化」「わかる化」の具体化　(3)調査研究活動の発展性と進行管理　等の役割を確認した。　また、これまで２年間取りまとめた「調査報告書」(分析データ等) は、決して、本会や会員個々に抱え込むことなく、各会員それぞれの立場で、さらに、積極的に地域社会に働きかけることを申し合わせた。

●今年度の調査研究活動の展開

(1)調査項目・調査票検討　　＊本会定例会及び「調査部会」等中心に検討…４月～７月
(2)調査票完成……07 月 30 日
(3)調査依頼（実施期間）……08 月 01 日～08 月 31 日　（夏休み期間中の調査実施）
(4)回収・入力期間……08 月 01 日～09 月 30 日
(5)分析・考察……10 月 01 日～11 月 30 日
(6)公表・報告……2022 年 1 月予定　①公開型報告研修会，関係機関・団体等の各種研修会等
②本会通信で経過報告及び考察概要紹介

●「第１回IT部会」の論点を6月定例研究会につなぐ

◇「調査実施要項」の検討
①わかりやすい調査タイトル（キャッチコピー）
②調査対象　　４年生・５年生・６年生１５０名
③調査方法
・あくまでも、地域における調査実施
・地域において活動する団体、各自治会・町内会内に組織されている「子供会」の協力　学童保育機関

◇調査票及び項目
・A3 縦両面 設問２５項目前後　自由回答は１問のみ

「第２回 IT 部会」は、６月２６日・土曜日　実施要項、調査個票、調査方法等の具体化を協議する。

シリーズ❺　｜ご近所福祉その意識と実態調査」から何が見えたか

設問11　毎日の暮らしの中で困った時の相談は誰か

＊回答の多い順に、①家族８７％　②友人・知人　４５％　③親戚関係２５％　④近所の人７％　⑤医師・保健師３％ ⑥自治会・町内会関係者、民生委員児童委員、　地域包括支援センター各１％。　年代別では、２０代から６０代までは、「友人・知人」３０から５０％を占めているが、６０代以降になると、「親戚関係」が逆転している。

設問12　日常における生活情報源について

＊回答の多い順に、①ラジオ・テレビ５４％　②インターネット　３６％ ③家族３２％ ④新聞２８％ ⑤友人・知人　26％ ⑥回覧板４％　⑦行政広報誌３％　⑧自治会・町内会発行広報誌２％　⑨口コミ２％。主生活情報源は、マスコミ、インターネット。男女別でも同じ傾向の回答。 年代別では、２０代から５０代までは「インターネット」が一番回答が多く、６０代以降は、「ラジオ・テレビ」「新聞」等マスコミからの情報源が多い回答。これまで、ご近所の身近な生活情報源としてきた「回覧版」の回答は少ない。

新たな情報提供の仕組みの課題が出ている。

設問 13　地域の役員等に推薦された場合について

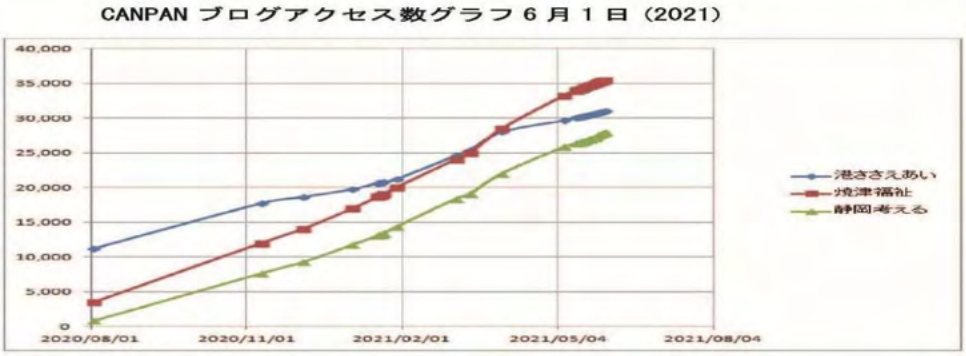
＊男女別もほぼ同じ「推薦に応じない」が２９％で「推薦に応じる」２３％を上回った回答結果。「わからない」は３８％ 有職年代の３０代から５０代は、回答状況として「わからない」が上位を占めている中で、「推薦に応じない」が上位である。　６０代、７０代は「わからない」回答が多い中で、「推薦に応じる」が「推薦に応じない」を上回っている。　８０代では、「推薦に応じない」が多い。

設問 14　「 推薦に応じない　」回答の主な理由について

＊回答の多い順に、①「仕事がある」３９％　②「自信がない」３６％　③「その他（内容による）２５％　④「責任のある地位につくのは煩わしい」２１％　⑤「家庭がある」１２％

男女別では、男性の①「仕事がある」３２％　②「自信がない」２７％、女性は、①「自信がない」２７％　②「仕事がある」２２％　である。

● ● ● 焼津福祉文化共創研究会ブログ件数をグラフで読む ● ● ●



2020年８月以降、日本福祉文学会HPと本会ブログとのリンク以降、日々、活動状況のデータアップに努めている。その結果、左記のグラフの通り、アクセス件数は、１日平均７９件と急増。

事務局日誌拝見（5 月 07 日～6 月 12 日）

5/07	・赤い羽根しあわせ募金助成事業申請書提出
5/08	・５月定例研究会開催　（「静岡福祉文化を考える会」との協働、調査研究事業の取組み）
5/11	・静岡新聞に「調査報告」記事掲載　・記事掲載に関する問い合わせ有
5/13	・子ども対象調査活動に関して関係方面(学校)に問い質す
5/14	・「まちむら」（あしたの日本を創る協会発行）の投稿について問い合わせ
5/24	・焼津市Ｖ連より、「2021 年度議決結果」文書届く
6/03	・「第１回 IT 部会」開催
6/12	・６月定例研究会開催　・「研究会通信 21 号」発行